

1989～'90年度

海外研修報告

インターアクト年次大会報告



国際ロータリー第266地区インターアクトクラブ

スポンサークラブ 大阪南西ロータリークラブ

ホストクラブ 大阪教育大学教育学部
附属高等学校平野校舎



インターアクトクラブに想う

R.I.第266地区インターアクト委員長

重村 泰治

「国家の運命は青年の教育にかかって存する」とギリシャの哲学者アリストテレス (B. C. 384) は云っています。

貴方たちは文化における宇宙飛行士です。何故なら、貴方は未知のもの、新しいものへの探究を求め続けています。さまざまな言語さまざまな文化が、若い貴方の好奇心を刺激します。貴方は格式ばらず、気負もなく、国や文化の境界を越えて意志をかよわせる天才的な「大使」です。貴方はものごとに強く傾倒し、自分が没頭することに情熱をもって追求する特性をもっています。——とは云え、やはり人生の先輩の指導が必要です。それは父母や学校の先生であったり、時にはロータリアンであったりします。それが適切な方向でない場合、貴方自身に、貴方の地域社会に大きな迷惑と苦悩を与える原因となりうるからです。

私はこの一年間、いろいろな体験と一緒に味う機会に恵まれました。

夏の終りのハワイ海外研修旅行は実に素晴らしい思い出のひとつです。あるインターアクトクラブの学生が云っていることを耳にしました。

「ホームステイは本当に楽しかった。日本の家庭がアメリカの家庭と非常に違っているながら、共通点も多いことを知って興味をそそられました。」

若いインターアクトクラブ会員の熱意を考えると、このプログラムが提唱ロータリークラブとその地域社会の双方にとって魅力のあるものであることは容易に理解出来ます。

又貴方にとって何よりも大切なことは新しいことを学ぶ心、人の心がわかること、人の上に立てるリーダーシップ、自分の考えをまとめて表現できる能力、多様な価値観を受け入れる力、等を身につけることでしよう。

私達ロータリアンは貴方たちの今後の益々有意義な活躍を心から期待してやみません。



国際ロータリー
第266地区



インターアクト・クラブ

1989年

8月24日(木)～8月30日(水)

海外研修報告

産 経 新 聞

きょう中高生120人 ハワイへ研修旅行

インター・クラブ

延べ約四百人参加。
今回の参加メンバーは重
今回の参加メンバーは重
村等団員及び、博覧會の大
教大付属高生の生徒、約二
百二十八人通算。一行は
二十四日現地入り、二十
八日までホノルル市内に滞
在。期間中、生徒一人が一組
とほつて各ホステファミリー
でホーモスライを体験するほ
び、現在の高校生生活のワット
ン、インター・クラブの活動パーチ
イーなどにも参加する。

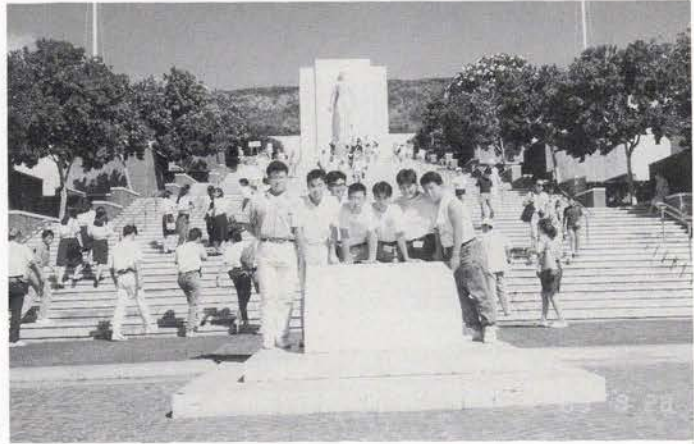
昨中央集約訓練校前の研修旅行センターで公開する。

延べ約四百人参加。現在の高校生生活のワットン、インター・クラブの活動パーチイーなどにも参加する。





ヌアヌパリにて



パンチボールの丘



ダイヤモンドヘッド山上



ダイヤモンドヘッド山上



マジックアイランドでハイチーズ!



パールハーバーにて





アラモアナホテルでの
ディナーの会





すばらしかった
ホームステイ





ポリネシア文化センターで
ハワイ文化の研修





日本に着きました。



日程表

日次	月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関	日 程
1	8/24 (木)	大 阪(発) ホノルル(着)	夕 刻 早 朝	航 空 機	大阪よりジャンボジェット機にてハワイへ。 着後、ホノルル市内で研修(ヌアスパリ、パンチボール、ダウンタウン昼食後、ダイヤモンドヘッド登山。 (ホノルル・アラモアナホテル泊)
2	8/25 (金)	ホノルル			パールハーバーにて研修。 ホスピタリティセンターにてホームステイオリエンテーション。 16:00 ホストファミリー出むかえ。 (ホノルル・ホームステイ泊)
3	8/26 (土)	ホノルル			終日ホームステイ (ホノルル・ホームステイ泊)
4	8/27 (日)	ホノルル			各家庭よりホスピタリティセンターへ集合。 17:00 フェアウェルパーティー パーティー終了後ホテルへ。 (ホノルル・アラモアナホテル泊)
5	8/28 (月)	ホノルル			午前研修。 ポリネシア文化センターにてハワイ文化について研修。 (ワイキキ・シェラトンホテル泊)
6	8/29 (火)	ホノルル(発)		航 空 機	朝食後、思い出を胸に帰国の途へ。
7	8/30 (水)	大 阪(着)	午後	航 空 機	入国手続き後解散。

参加者名簿

No	氏名	住所	TEL	クラブ
1	吉村 州摩子	奈良市大森町197-4	0742-34-7809	金光八尾 I A C
2	三浦 孝之	宇陀郡榛原町長峰152	07458-2-0254	〃
3	満野 真由美	柏原市大正3-3-17	0729-71-4970	〃
4	蘭田 吉章	奈良市二名町5049-8	0742-43-7168	〃
5	土井 京子	大阪市東住吉区桑津3-22-24	06-714-7322	〃
6	小沢 由佳	八尾市新家町3-32	0729-23-0692	〃
7	利安 亜紀	堺市槇塚台3-41-5	0722-93-4829	〃
8	岩井 栄美子	八尾市萱振町1-5	0729-22-7224	〃
9	若林 正信	吹田市垂水町3-8-21	06-374-0231	〃 (顧問)
10	片島 哲也	神戸市垂水区塩屋町8-1-14	078-752-4261	〃 (顧問)
11	千葉 佳永子	松原市天美東6-14-8	0723-31-0342	〃 (顧問)
12	小林 貢	泉南郡熊取町七山583-5	0724-53-5420	清風学園 I A C
13	露木 雄次	大東市北茶2-1-47	0720-77-4440	〃
14	吉兼 周吾	大阪狭山市大野台6-4-4	0723-66-7047	〃
15	吉田 宝	大阪市平野区瓜破7-2-22	06-709-1234	〃
16	興津 求	河内長野市北青葉台15-23	0721-63-6434	〃
17	藤木 一雄	北葛城郡王寺町久度1-11-23	0745-32-5208	〃
18	南保 貴洋	大和高田市井新町8-41	0745-52-7878	〃
19	神谷 佳郎	大阪市住吉区墨江2-6-6	06-671-3614	〃 (顧問)
20	本田 和也	大阪市住吉区我孫子2-11-20	06-607-7802	浪速高校 I A C
21	藤村 慎介	柏原市古町3-6-42	0729-71-0220	〃
22	坂口 哲雄	松原市天美東22-53-56	0723-32-7527	〃
23	大政 伸朗	大阪市東成区中道1-7-15	06-971-4881	〃
24	椿 和人	堺市菱木1158-17	0722-73-4612	〃
25	長野 範人	堺市浅香山町3-2-7	0722-28-4132	〃
26	本間 靖彦	生駒郡三郷町美松ヶ丘西1-7-1	0745-73-3966	〃 (顧問)
27	小梶 幸世	大阪市住吉区南住吉4-5-21	06-693-6845	明浄学院 I A C
28	蘇 朱莉	大阪市鶴見区毛馬町2-11-31-603	06-925-3548	〃
29	谷 舞千栄	大阪市鶴見区今津南2-9-9	06-962-8256	〃
30	北本 真理	松原市阿保3-17-12	0723-31-3143	〃

No	氏名	住所	TEL	クラブ
31	山中真紀	松原市岡4-1-52	0723-35-0639	明浄学院 I A C
32	富永和栄	大阪市生野区勝山南1-15-6	06-712-3708	〃
33	山本典子	大阪市西区九条1-8-3	06-581-6301	〃
34	伊沢豊	羽曳野市羽曳が丘西5-4-26	0729-56-7833	〃 (顧問)
35	山川義昭	堺市中百舌町6-830	0722-59-0904	〃 (顧問)
36	山下真美	大阪市鶴見区諸口5丁目浜10-8	06-912-6080	大阪市立東高校 I A C
37	辻美登利	大阪市城東区成育4-26-19-501	06-933-4031	〃
38	菊池真由美	大阪市北堀江1-13-11	06-538-1352	〃
39	高岡恵子	大阪市都島区供漕町1-5-9-712	06-921-1372	〃
40	奥川佳代子	大阪市鶴見区安田3-2-18	06-912-0948	〃
41	大井優雅子	大阪市城東区新喜多1-9-41	06-934-8415	〃
42	勇士幸子	大阪市鶴見区鶴見3-13-32-811	06-913-3618	〃 (顧問)
43	利川陽子	東大阪市衣指4-27-25	06-727-8822	四天王寺学園 I A C
44	小野登史子	富田林市錦織839	0721-23-2614	〃
45	條智美	枚方市東山2-46-21	0720-68-9020	〃
46	光永子	東大阪市源氏ヶ丘14-9	06-729-5593	〃
47	松本佳絵	堺市丈六216-1	0722-35-0097	〃
48	和久亜矢子	大阪市平野区加味東4-5-25	06-791-5661	〃
49	三谷純子	大阪市城東区関目4-10-36-111	06-933-6468	〃
50	松本佳子	枚方市星丘3-23-11	0722-49-0056	〃 (中学)
51	佐伯陽子	坂井市庭代台2-3-3	0722-97-6974	〃
52	羽柴菜津子	東大阪市新庄826	06-745-4672	〃
53	竹村美香	東大阪市洪川町3-13-11	06-722-2969	〃
54	本間章子	生駒郡三郷町美松ヶ丘西1-7-1	0745-73-3966	〃
55	本間規子	〃	〃	〃
56	森内明美	大阪市天王寺区上本町9-2-7-408	06-779-6863	〃 (顧問)
57	田中真康	大阪市住吉区住吉1-7-15	06-672-1706	〃 (顧問)
58	新谷有一	大阪市鶴見区鶴見1-5-28	06-911-0187	桐蔭高校 I A C
59	奥沢清孝	門真市舟田町38-7	0720-85-1807	〃
60	森本幹彦	大阪市港区築港3-3-1-328	06-571-2722	〃

No.	氏 名	住 所	TEL	クラブ
61	高 嶋 和 幸	生駒市あすか野南2-7-17	07437-9-0460	桐蔭高校 I A C
62	尾 田 智 徳	泉南郡熊取町野田621-384	0724-53-4709	〃
63	谷 崎 俊 介	枚方市長尾元町5-25-16	0720-57-4495	〃
64	蘇 武 茂	尼崎市東難波町3-21-10	06-482-7458	〃
65	奥 田 裕 宏	東大阪市森河内526	06-782-4801	〃
66	板 根 誠	東大阪市新池島町2-16-3	0729-87-1416	〃
67	柿 添 善 博	奈良市西登美ヶ丘5-2-19	0742-48-3056	〃
68	深 川 智 史	東大阪市源氏ヶ丘20-12	06-722-3784	〃
69	加 藤 成 樹	大阪市鶴見区今津南1-5-30-904	06-967-1286	〃
70	谷 木 栄 仁	門真市脇田町7-18	0720-85-2578	〃
71	山 本 元	門真市千石東町35-23	0720-85-0603	〃
72	長 田 成 弘	枚方市長尾東町1-40-18	0720-58-3602	〃
73	上 野 恵 司	大阪市福島区鷺洲3-1-3-411	06-453-7214	〃
74	河 津 浩 司	大阪市鶴見区徳庵1-2-45-604	06-912-3735	〃 (顧問)
75	平 岡 伸一郎	奈良市三確町636 サザンヒルズ学園前5-306	0762-49-5471	〃 (顧問)
76	八 木 裕 子	南河内郡美原町さつきの西1-6-3	0723-61-3713	大谷高校 I A C
77	川 端 由 貴	大阪市平野区加美南4-6-15	06-793-0398	〃
78	山 田 実 紀	大阪狭山市今熊2丁目1189-1 さつまハイタウンB-1505	0723-66-8123	〃
79	安 藤 仁 美	大阪市生野区鶴橋2-7-7	06-712-2266	〃
80	大 東 綾 子	大阪市生野区巽南1-3-9	06-758-2683	〃
81	山 崎 由加里	大阪市住吉区菟田2-3-23	06-698-1810	〃
82	藤 原 謙 次	堺市原山台1-4-3-401	0722-99-1331	〃 (顧問)
83	梅 田 一 弘	大阪市天王寺区四天王寺1-14-2	06-779-6957	大教大附高平野校舎 I A C
84	中 川 仁 史	大阪市住吉区我孫子2-5-11	06-698-3766	〃
85	坂 本 岳 之	大阪市平野区流町3-18-11	06-707-3322	〃
86	田 中 秀 宣	羽曳野市羽曳ヶ丘7-5-1	0729-56-7213	〃
87	長谷沢 覚	大阪市平野区平野本町4-12-17	06-791-8057	〃
88	中 野 聖 士	大阪市平野区流町4-12-17	06-706-0077	〃
89	伊 部 雅 子	大阪市平野区長吉出戸6-5-2	06-709-4913	〃
90	中 村 洋 子	大阪市平野区喜連1-1-17	006-709-5580	〃

No	氏名	住所	TEL	クラブ
91	横山佳世	八尾市東山本町2-4-32	0729-23-4907	大教大附高平野校舎IAC
92	西野博子	藤井寺市道明寺1-6-26	0729-54-5676	〃 (顧問)
93	大西慶一	大阪市天王寺区夕陽丘町3-30-303	06-773-5570	〃 (顧問)
94	奥村安正	芦屋市浜芦屋町6-20	0797-32-4616	ロータリークラブ(大阪南)
95	松本晴次	生駒市あすか野南3-4-8	07437-8-5568	〃 (〃)
96	吉川晃司	生駒市真弓3-2-21	07437-8-3951	〃 (〃)
97	藤井則郎	東大阪市吉原53	0729-61-4017	〃 (大東)
98	岡部州雅	大阪府中央区谷町9-1-22	06-761-0874	〃 (大阪城南)
99	三代文夫	大阪府西成区花園北2-11-9	06-633-1730	〃 (大阪南西)
100	津江正暉	大阪府浪速区日本橋西2-4-14	06-641-1771	〃 (〃)
101	友澤美明	大阪府住之江区粉浜西1-9-25	06-672-1218	〃 (〃)
102	池田勝浩	大阪府阿部野区三明町1-7-18	06-628-0591	〃 (〃)
103	宮川泰濟	川西市大和東1-100-1	0727-94-3815	〃 (〃)
104	宮川公子	〃	〃	〃 (〃)
105	重村泰弘	豊中市新千里北町2-39-10	06-831-2734	〃 (〃)

アコ中野

アコ中野は、大阪府の東部、豊中市に位置する。この地域は、豊かな自然環境と、高度な教育水準を誇る。アコ中野は、地域の発展と、住民の生活の向上に貢献している。また、アコ中野は、地域の文化と、伝統を大切にしている。アコ中野は、地域の発展と、住民の生活の向上に貢献している。また、アコ中野は、地域の文化と、伝統を大切にしている。

海外研修結団式

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 梅田 一弘

8月24日午後2時、続々と各校IAC会員が大阪国際空港へ集まってきました。荷物のX線検査を終え、パスポートを受けとり、展望台レストランでの結団式までの時間をそれぞれ、期待や不安をもって過ごしていました。

そして会場に入るとたくさんのジュースが並べられており、その数を見てもこの研修に参加する人数の多さがわかり、今さらながら当番校の責任の重さに身ぶるいしました。

皆、席につき、いよいよ結団式が始まりました。

参加者の紹介があり、各校のIAC会員とロータリーの方々、中には初めて見る方や会員もまじり、まだこの時には、誰が誰だかわからないこともありました。

重村委員長からお話があり、その最後に、声を出して全員で「元気でいってきます。」「無事かえってきます。」と誓いました。このとき、高ぶっていた一人一人の気持ちが、一瞬のうちに一つにまとまった気がしました。

最後にIACの歌を歌いました。いつも行事があると歌っているのに、この時だけは何か違った、新鮮な気持ちで歌ったような気がしました。

こうして結団式を終え、添乗員の方から出国・入国の手続きなどについて説明があり、このときにはもう、皆の心は遠い異国の地へとんでいるようでした。

このあと、私たちは国際線搭乗口へと向かいました。

機中にて

大阪桐蔭高等学校 上野 恵司

8月24日の夜が明けた。今日は、待ちに待ったハワイ研修の当日なので、いつもより早く目が覚めた。午後4時35分、僕達は飛行機に乗り込んだ。そして、期待と不安を胸に抱いた僕達を乗せた飛行機は、ハワイへ向けて出発した。離陸の時に、怖がっていた生徒が何人かいたが、水平飛行にはいってからは、友達同志で話を始めていた。スチュワーデスさん達が、機内サービスで、おしぼりやジュースを持ってきてくれた。また、機内食も食べた。食べ終わった後で、写真を撮り始めた人が何人かいた。そうしている内に機内で映画が始まり、それが『レインマン』で、ほとんどの生徒が、その映画を見ていた。映画が終わると、機内がとても騒がしくなった。なぜならば、他の学校の生徒と話しだしたり、写真を撮ったりしていて、だんだんと、慣れてきたからだった。中には、スチュワーデスさんと写真を撮ってもらおう人もいたみたいだ。着陸する3時間前に、軽い朝食みたいなものが出た。

ハワイ上空に来た時に、あまりにもハワイの夜景がきれいだったので、ほとんどの人が、飛行機の窓の近くまで寄って行って、写真を撮っていた。あの夜景を見た人に聞けば、多分十人中十人がすばらしいと言うにちがいない。

ホノルル空港に着陸して、僕は待ちに待っていたハワイの土地に足を一歩踏み出した。その時は、今までどんな所に行った時よりも、感動した。こうして、僕達のハワイでの約6日間の生活が始まったのであった。楽しい思い出を日本に持って帰ろうと思って…。

うれし恥かし生まれて初めての飛行機だ

大阪市立東高等学校 菊池 真由美

初めて、文字通り生まれて初めて乗る飛行機に、私は、前日から興奮しっぱなしで、ワクワクドキドキ、心臓の鼓動がはやくなって仕方がありませんでした。私達R I 266地区I A Cメンバー約100名は8月24日16時35分発ホノルル行きJ A L 3086便に、とうとう乗り込みました。

機内では物珍らしさからあたりをきょろきょろ。機内の設備が充実しているのにはびっくり。自分の席にすわって、シートベルトをするといよいよフライトです。

「わあ 動いてる、動いてる。」と思うと、もう、顔が自然にほころんでしまいました。機体が斜めに傾くにつれて、すごい気圧というか、圧力がかかってきて、耐えるのに必死でした。でもなんとか水平飛行になって、まだワクワクしているうちに夕食。小さなトレイの中にメインデッシュ、サラダ、フォークとナプキンはもちろん、デザートまで組み込まれていてびっくり。胸が一杯であり食べられなかったけど、結構おいしかったです。

夕食後、機内が暗くなった時、私は眠ろうとしたのですが回りがおしゃべりに夢中でザワザワしていてほとんど眠ることができませんでした。そのせいかホノルル空港に着陸した時に、耳の中がおかしくなってしまったのです。

耳が痛くなり始めたのは、飛行機が、ホノルルに着陸しようとして、機体がななめに傾いた時。高度が下がり、減速していくにつれて、ますます痛みがひどくなって耳がちぎれるんじゃないかと心配したほどでした。「もうこれが限界だ。」と思った時に無事着陸して、やれやれ。あんな風に痛い目にあったのも生まれて初めてのことでした。機内が気圧の変化のために、あのようになることがあるのだそうで「アクビをするといい」とか「生ツバを飲み込むといい」とか教えてもらったことをすべて試してみたのですが、夕方まで痛みがとれずちょっとつらかったです。ちなみにホノルルに着いたのは、8月24日の午前5時17分頃、日本を発ったのが、同じ日の夕方の4時35分でしたから何だか一日分、得をしたような気分。ハワイの夜明けはさすがに早く、朝日はキレイだったけど、時々襲ってくる睡魔と耳の痛さと戦いながら、私のハワイ研修旅行は始まったのでした。

機内の思い出

金光八尾高等学校 利安 亜紀

8月24日から30日までのハワイ海外研修は、私にとってとても貴重な経験となりました。ハワイへ行く前は飛行機も乗ったことがなかったし、もちろん海外研修なんでものも始めてだったので、不安の気持ちでいっぱいでした。当日の朝、重いスーツケースを持って空港に1時間も前に着きました。そして結団式も終わっていよいよ飛行機へ乗りました。私は自分の席に着いて離陸を待ちました。スチュワーデスさんが救命胴衣の説明を始め、緊張も高まってきました。そしていよいよ離陸し、それまでの友達との会話もとぎれ、エレベーターに乗ったような気分になりました。聞いていた以上に気分の悪いものでした。

水平飛行に入り、スチュワーデスさんがジュースとおつまみを配ってくれました。しばらくして機内食が運ばれました。思っていたよりおいしそうだったけどハワイへ行く不安と期待の気持

ちでいっぱいだったのであまり口に入りませんでした。少しの間友達と「ホームステイ先は、どんな家族だろうか?」とかいろいろ話をしていました。そのうちに誰かが星が見えるというので見に行くと、とても星が近くに見えてなんだか今にもさわれそうな気がしました。

本当はもっとホームステイやその他のことについていろいろ書きたかったけれど、機内の感想を書く係になってしまって本当にこのハワイ海外研修は高校生活の中の一番の思い出になると思っています。もう一度行けたらハワイに行くつもりです。

機内にて

大阪市立東高等学校 奥川佳代子

海外に行くということは、私にとって初めてのことなので、ウキウキした気分と、それとは別に、あまり実感がなく、修学旅行にでもいくような気分とが半々だった。

空港で見た飛行機は、テレビや写真で見るのとは違って、とても大きく、その大きさにすっかり圧倒されてしまい、「すごく大きいなあ。」という他は何も言葉が出てこなかった。

飛行機に乗って、自分の席に座って、シートベルトも着用した瞬間から、ジワジワと、外国へ行くんだという実感がわいてきた。飛行機が滑走路に向かって動き始めた頃から、自分でどんどん興奮が増してくるのがわかり、友達と騒いでしまった。そして、飛行機が今から大空に向かって飛びたとうとしているということが感覚としてわかり、まわりから、「ワー」という興奮した声が聞こえてきて、私も、うれしくてつい「ワー」という声を出してしまった。

やっと落ちついてからの私は、あまり眠る気分にもならず、窓の外を眺めていた。いくら眺めても外はまっ暗で時折雲が見える以外は何も見えはしなかったが、頭の中では、いろんなことがぐるぐる回っていた。これから始まる海外での生活、最大の楽しみでもあり、不安の少しある三日間のホームステイなど、期待と不安は尽きず、どんどん時間が過ぎていった。

しかし、ホノルル空港に近づいてきたとき、私の頭の中の不安を吹きとばすようなすばらしい夜景が見えてきた。まっ暗な中に、針の先ほどの光の点がたくさん見えたかと思うとそれがどんどん大きくなり明るい輝きとなった。それはそれは美しく、ダイヤモンドのようで、こんな美しい夜景を一人だけで見るのはもったいなくて、家族や学校の友達にもみせたいと思ったぐらいだった。そして、これからスタートする海外での生活が、この夜景のように私の心の中に残るようなすばらしいものであればいいなと思った。

飛行機からみた夜景は今でも私の目に焼きついて、忘れることが出来ず残っている。そして、それと同様に、いや、それ以上に、ハワイでの5日間の経験は、私の人生の最もすばらしい思い出として、私の心の中に刻み込まれている。

海外研修に参加して

金光八尾高等学校 満野真由美

24日の2時、大阪空港に集合となっていました。私達はうきうきしているせいか1時間も早

く着きました。研修前は「早く行きたい」という気持ちと「飛行機だいじょうぶかな?」という気持ちでフクザツでした。そして24日午後2時30分、大食堂にロータリアン+9校の人達があつまって結団式をし、いよいよ飛行機に乗る時間が近づいてきました。搭乗に際してパスポートを出したりしまったり、どれ1つをとっても生まれて初めての経験なのでとても不安な気持ちでした。さあいよいよ飛行機に乗る時間です。胸がはちきれんほどドキドキしてきて、さっきまではしゃいでいたのが全部「この飛行機だいじょうぶかな?」の不安に変わっていました。しばらくして「シートベルトをしめて下さい。」という放送が入り、スチュワーデスのおねえさんが回ってきました。それからまもなく離陸です。離陸の時はエレベーターに乗っている気分でした。そして自然に不安が消えて、楽しい会話が飛び回るようになりました。「これでひと安心」と心の中でつぶやきました。少し時間がたつとスチュワーデスのおねえさんがジュースを運んでくれました。そして再び時間がたつと夕食が運ばれてきました。機内の食事なんかおいしくないだろうと思っていたのが反対で、とてもおいしかったです。ごはんを食べ終わってから映画「レイン・マン」が上映されました。先生に「寝とけへんかったら知らんで。」

と言われていたのに一睡もせずしゃべってしまいました。そして朝食をたべて間もない内にハワイに着きました。時間はA. M. 5:18でした。なんと日本と19時間も時差があるのです。機内放送が入りました。その日から夕方に出発してその日の早朝に着くなんて、なんか不思議な気持ちです。手続きを終えて出てゆくと、そこはまさしくハワイでした。やっぱり何といてもハワイの景色は目に焼きつくほどきれいでした。

わずか7時間足らずの飛行機の経験なのですが、今までにしたことのない経験ができて本当によかったと思います。もう1度行きたいなあと思います。今までに1番心に焼きついている思い出だと思います。

ダイヤモンドヘッド登山

金光八尾高等学校 吉村 州摩子

私達がハワイへついた初日に、ダイヤモンドヘッド登山がありました。みんな長時間、飛行機に乗っていたにもかかわらず元気いっぱいでした。この日は、とても良い天気です。初めて経験するハワイの強い日射しを浴びながら、いよいよダイヤモンドヘッド登山開始となったのです。想像していたよりも坂はゆるやかでとても登りやすく、みんなでこれから始まるハワイの生活の話など、各々で会話をはずませながら、楽しく登山をしていました。横をすれちがうハワイの現地の人達は皆、陽気で明るくてはつらつとしていました。とても暑いのに、さわやかな風が吹き続けているので、汗はほとんどかかずにすみ快よく登山していました。だんだん登っていくとトンネルのような真暗な場所を通り、急な階段やせまい所をくぐりぬけて、やっと着いた頂上は素晴らしい眺めでおもわずみとれてしまいました。やはり日本では見られないハワイの風景はすごく美しく印象的なもので、みんなカメラのシャッターを押しながら高揚した気分を抑えきれなかったようでした。それから全員に缶ジュースがくばられて、一息ついてから、集合写真を撮りました。ハワイの美しい海の光景を目に焼きつけて私達はダイヤモンドヘッドを降りることになりました。

ダイヤモンドヘッドに登って

大谷高等学校 八木優子

「なんでハワイまで来て山登んのよ。」「私ら、御百度参りしに来たんちゃうで。」「こんなしんどい時に何やらせんよ。」「誰？ダイヤモンドヘッドは丘や言うたん。私、サンダルで来たのに。」

こんな言葉が飛びかった。はじめの登り道！寝不足からくる頭痛、はき気、食欲不振。こんな体調で登って、誰も笑いません。そのうち出てくるのは「まだあ？」という単語と汗だけになりました。

そんな中で、日本と違うことを感じました。細い道をどんどん進んでいくのだから、降りてくる人と、ぎりぎりにすれちがいます。そんな時、男性なら手を出して、先へどうぞと言って下さったし、女性なら気軽に Hello!! とか Aloha!! とか声をかけてくれたりしました。初めは、とまどって小さな声で Excuse me としか言えなかったけど、そのうち笑顔で Excuse me と言えるようになり、気も楽になりました。こんな山中で、レディーファーストを経験して、不思議なうれしさを感じるとともに、もし、日本の男性なら…と考えるとしまうほど日本の男性に少し幻滅してしまいました。

長くて暗い螺旋階段が本当にこわかったため、頂上が一段と明るく感じました。初め、ハワイの風景を目前にして、口がきけませんでした。さきほどまでの、しんどくて口がきけないのとは違い、あまりにもきれいだっただからです。汗をかいた顔に風が吹いて、とても気持ちがよかったです。空の色、海の色、町の色が日本とぜんぜんちがってすばらしいため、とても魅了されましたが、その反面、同じ島国なのに、どうしてこうも違うのかと思うと悲しくなりました。

こんなすばらしい風景を見ていると、なんだか、これからいいことがたくさんあるような気がして、とてもうれしくなりました。

「ハワイでの第一日目」

浪速高等学校 大政伸朗

飛行機を8時間乗りつづけて休む暇もなく、そのままバスに乗った。飛行機の中で眠っていない僕にとっては、とても辛く時差ボケのせいで、何が何かわからなかった。バスの中で眠ろうとしていたが、バスガイドの元気な声で、時差ボケがすつとび周りを見ていた。「おお、これがハワイか」日本とはひと味違うなあと思った。さすが外国やなあと思ったのは前から知っていたけれど右側通行をしている時に実感した。とても高いビルを見て驚いている自分が嫌だった。でも少し残念だったのは、片仮名で「ユウコ」などの看板があったのが、ハワイに来た雰囲気壊していた。でもこの青い空、遠くに見える山、そして大阪湾とは比べものにならない海は、僕が考えていたハワイより数倍もスケールが大きかった。そんなことを考えながらバスは、まるで東京のハトバスのように、ぐるぐると周っていた。僕は、腹が減ったなあと思っていると、ファーストフードの店に行った。自分で注文をして買うことを考えるとちょっと気遅れがしてしまった。でもその時はジェスチャーまじりで、英語を話すことは少ししかなかったが、店の人が何を言っているのかはだいたい理解ができた。僕は、これから先どうなるか少し不安であったが、それ以上にどこかに冒険しに来たようで期待でいっぱいであった。

市内での研修で

浪速高等学校 阪口 哲雄

ホノルル初日ということで、見るものすべてが新鮮だった、自分にとって、パンチボールの丘では胸を打たれるものがあった。そこは広い敷地の中に、縦、横の配列がきれいに揃った墓石が静かに埋っていた。はじめは単なるオアフ島に住むアメリカ人の墓かと思っていたが、後になって真珠湾攻撃で戦死した人の慰霊碑であることを知り、とても驚いた。また数えきれないほどたくさんある墓石は、全て名前が分かった人達だけが眠っていると聞き、分かっていない人を含めるとその数は計り知れないものだと思う。改めて戦争の恐ろしさを身に感じた。

おそろしさといえばヌアヌパリの展望台だった。眠たい目をこすりながらバスを降りた途端、^レゴ^ッ、という音をたてながら吹き荒れる風が僕達を襲ってきた。息をのんでしまうほどの強風で、「なんだここは」と心の中で叫んでいた。それに目の前には思わず息をのんでしまうほどの断崖絶壁が僕達を待っていたかのように並んでいた。一步踏み外せばもうそこは天国の世界。今にもものみこまれそうな感じがして、身も心もおじていた。しかし、こんな危かしい所でもさすが南国！はるか向こうで輝いているエメラルドグリーンの海が眩しかった。それに^レ異国文化、という感じの街並を一望することができ、そのすばらしい景色が今でも忘れられない。

最も言いたいことは、日本が仕かけた真珠湾攻撃を相手の国の身になって考える事ができたことだ。後に見学したパールハーバーでの戦艦を見ても、争いの無残さ、残酷さがよく分かり、当時の喚声は今にも聞こえてきそう。これらを見て、現在こんなに平和な中で優雅な観光ができる僕達の幸せさを、今後の人達にも知ってもらいたい。ロータリアンの方々には大変お世話になり、ありがとうございました。

ハワイでの第一日目

浪速高等学校 本田 和也

夏休み前から楽しみにしていたハワイへの研修旅行の第一日目は、機内で一睡もしなかったのでとてもきつかったです。ハワイに着いて少しの休む時間もなくバスに乗り、観光に行きました。バスの中で、みんなが眠たそうなので、案内して下さる女の人が目がさめるように話をしてくださいましたが、全く目はさめませんでした。こういう状態で、午前中は、アラモアナパーク・ヌアヌパリ・パンチボール・ダウンタウンを見学しました。ヌアヌパリは、とても景色が素晴らしかったです。でもハワイで強風の名所として有名なだけあって、とても風が強かったです。それに、気温がとても低いために、ハワイではないような気がしました。そして、みんなで記念写真をとりました。疲れているため、笑えませんでした。午後は、一番観光しなかつたダイヤモンドヘッドへ登りました。というのも午前中ならまだしも、一番疲れがたまっていて眠たい時に山を登るために行きたくなかつたのです。僕は、ダイヤモンドヘッドというのがあまり高くない山だと聞いて安心していましたが、睡眠不足のために、とても長い道のりに感じました。そのために、山頂に着いた時は、とてもうれしかったです。それから、山頂まじかの所にあった、長いトンネルとらせん階段には、電気をつけた方がいいと思いました。この研修で、ハワイの色々な所を見学することができて良かったです。こんな経験ができたのも、ハワイの研修を企画してくださったロータリークラブのみなさんのおかげです。ありがとうございました。

ホノルル市内の感想

浪速高等学校 藤村 慎介

眠い。とてつもなく眠い。今が一番眠い時期だ。ただ今、日本時間午前零時三十分。なのに今から市内観光とはふざけてるやないの。

バスの中から見た様子は、さすがに市内でも緑が多い。特に、いかにもハワイという感じのヤシの木など、ヒョーと長いを見ると、眠い頭にも、自分がハワイに来たということを自覚させることが出来た。でも眠い。

道路が右側通行という事や、周辺の看板が全て英語だという事も、時差ボケの頭を覚ます材料とはならなかった。時差ボケを治すために、観光中はバスの中でも寝ないようにと言われていたので必死に目を開けていた。が、限界が来る。バスの心地良い振動が僕を眠りに誘う。—ああもう寝たろうか—と、どこからか声が聞こえる。「寝たら死ぬぞー。」八甲田山かここは。

などと思いつつ、バスはどんどん進んで行く。降ろされると、日差しがきつい。大阪の日差しとは格が違う。まるで、太陽が自分一人だけに向かって照りつけているようだ。弱っている身にはこたえる。え、10分後に出発!! 休む暇もないわ。先生にはこの観光の感想を書けて言われてるし、ヤバイなあ。考えようとしても、脳の働きがSTOPしているのだから仕方がない。

—それにしても、こっちにはおかまいなしに、ええ天気やなあ。カンピョーになりそうや—
ブツブツ書いて来たけど、研修に全然関係ないという気がしないでもない。実を言うと、時差のせいで、なんにも覚えてないんですわ。ほんまにすいません。ああ眠い。

市内での研修

浪速高等学校 長野 範人

僕が市内での研修中、一番最初に感じた事は時差ボケでした。飛行機の中で眠っていなかったもので、とてもねむかったです。

ハワイに着いた時は、まだ周りは真っ暗でしたがしばらくすると、みるみる明るくなりました。最初のうちはハワイに来たと言う実感がありませんでしたがバスに乗っているうちにだんだん「ハワイに来た。」という実感がわいてきました。アロハタワーやダウタウンなども見ました。

そして着いたのがヌアヌ・パリでした。そこはハワイとは思えないほど涼しかったです。それにそこからの風景と言えぱたとえようのないくらいきれいでした。この風景は、僕がハワイで印象深く感じた事の中の一つとなっています。

それにパンチボールの丘へも行きました。何も知らずに来たら、お墓だとわからないのではないかと思えるくらいにきれいな所でした。

そんな事をしている間に眠たい事など、どこかに行ってしまいました。

市内での研修

浪速高等学校 椿 和人

ぼく達266地区インターアクトメンバーは、朝5時頃無事にハワイに到着し、市内見学のため、

バスに乗り込みました。空は青々としていて、ハワイに到着した時は、まだ暗かったのに一時間ぐらいいすっかり夜が明けていました。浜辺の歩道でジョギングしている人がいたり、やしの木の並木を見て、ハワイに来ているという実感が湧いてきました。

少したつとアロハタワーが見えて来ました。その辺りは、空港ができる前までハワイの中心として開発されていたそうです。窓の外の景色を眺めていると、マンションのような建物が現われ、バスガイドさんの話では、金持でない人しか住めないそうで、たいていのハワイの金持ちは、山の上の方に住んでいて、自分専用の道路を持っているのを聞かされ、日本とは違うことをつくづく感じさせられました。

ハワイの市内研修で最もすばらしかったのは、ヌアヌ・パリでした。そこは、オアフ島最大のコーラル山脈の切り立った崖のようなところでした。バスから降りるとハワイとは思われないくらい涼しく風が強く、上を見ると山には雲がかかっていました。その昔、カメハメハ大王がハワイ統一最後の戦いで、兵士を崖から落としたという言いつたえが残っているそうで、そこからの眺めは、青い空とエメラルドグリーンの海、それを貫くようにそびえ立つ剣のようなコーラル山脈。この不自然なほど美しい雄大な風景は、ぼくの脳裏に焼きつけられ、忘れることができないでしょう。

最後に、こんなにすばらしいプレゼントをぼく達にしてくれたロータリアンの方々、ありがとうございました。これから一層国際理解や、奉仕活動をがんばっていきたいと思っています。

市内研修の印象

四天王寺高等学校 光 永子

八月二十四日、幸福にも私には二度目のハワイ、着いた時刻はまだ午前五時ごろで空はまだ暗く外の空気は冷たく感じられました。

空港でレイをかけてもらい、その花の香りが私に、ああ、ハワイに来たんだなと実感させてくれました。

空港にバスが着いたころには、もう太陽も昇っていて、バスでの市内観光がはじまりました。

すがすがしい空気、すんだ空、美しい景色、なにもかもがなつかしい、こんなすてきな所で一週間も過ごせるなんて…。

九時十分ごろ、ヌアヌパリに到着しました。ヌアヌパリから見えるホノルル市街や海はもう口ではいい表せないほどすばらしかったです。ただ風が強すぎることで、海からの風のせいで体が少しべたついたので難点だったと思います。ヌアヌパリを後にし、三十分ほどすると、パンチボールにつきました。日本の墓地とはまるでちがいが、公園のように見え全く墓地とは思えないような雰囲気でした。うらやましいと言うより、なんとなく気味の悪い気さえました。日本だったら考えられないことだったからです。

それから市内を走っていて感じた事、それは日本では当たり前になっている駐車違反の自動車が全くない事です。道は日本より広いのに一台もなく、パーキングメーターの前に止まっている自動車も赤いランプのついているのが一台もない事です。交通道徳をきちんとわかまえているアメリカのマナーを日本人は少しでも見習うべきだと思います。

時間が少なく見たい所もあまり見れなかったのでぜひ機会があればもう一度行きたいです。

それとお世話になった人々に「ありがとう」という感謝の気持ちで一杯です。

The Arijona Memorial

大阪市立東高等学校 大井 優雅子

アリゾナ記念館と見学者センターを訪れ、真珠湾攻撃のドキュメンタリー映画を見ました。映画のフィルムが回るにつれて、だんだん心が重くなり、涙が出そうになりました。

ナレーションはすべて英語だったので、言葉からこの映画をすべて理解することは到底できませんでした。しかし、言葉がわからなくても映像を見ていると、なんとも言えない悲しみと切なさを感じました。

「戦争」人間が人間を殺して行く残酷な出来事。あの映画を見ながら、私はこの残酷で醜く、人間の愚かさをむき出しにする出来事がフィルムの中だけで済みますようにと、祈らずにはいられませんでした。日本の各地でも、人々が再び地獄のような経験をし、涙と悲しみの声をあげなくていいように、戦争というものを二度と再び起こしてはいけないと痛切に思いました。

そして、平和な日本に帰って来た今、私は過去の出来事を忘れず、「戦争」という忌わしい文字を、再び使わないですむ時代を長く維持して行かなくてはならないと強く思っています。

私も、その中の一員として、人々を助けることのできる仕事に対して、がんばっていきたいと思っています。

幸せなことに、私は戦争を知らずに生まれ、育ってきました。しかし、世界中には、内戦も含めて、戦争をしている国々がいくつもあります。世界中から不幸な戦争がなくなり、世界中の人々が、平和の中で幸せに暮らせる日が来ることを願わずにはられません。このアリゾナ記念館への訪問を契機として、私も微力ながら、世界平和を達成するために尽力していこうと思います。

パールハーバー

清風学園高等学校 南保 貴洋

パールハーバーのアリゾナ記念館が海に浮かんでいるのを見て、そこにアリゾナが沈んでいるのを想像することが出来ないぐらい海はおだやかで空は晴れあがっていました。

アリゾナ記念館には多くの人々が来ていて、その人達がどういう気持ちで、沈んでいるアリゾナを見ていたか分かりませんが、少なくとも二度とアリゾナが沈んだ頃のような状態にしてはならないと思いました。そしてアリゾナが沈んでいるずっと左の方に軍艦が停泊しているのが印象的でした。

その後、真珠湾攻撃の映画を見て司会の人話を聞いていると、やはり日本に対する反感が少しあるみたいでしたが、パスガイドの話によると、司会の人によってはもっとその反感が表に出る人もいらっしゃるようです。

そして、船でアリゾナの上にある箸置のような白いアリゾナ記念館に渡りました。そこには、アリゾナと共に沈んだ人の名前が書かれていました。それを見ているとこの下にその人達がいると思うとかわいそうに思いました。そこでは、手をあわせている人もいました。

帰りの船では、見はらしが良くて、それまでの気持ちが吹き飛びました。そしてパールハーバーの景色を楽しむことが出来ました。

そしてその景色をいつまでも見ていることが出来るようにしなくてはならないと思いました。

42年の歴史を目の前にして

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 中村 洋子

「Pearl Harbor」という文字を見ても、すぐに真珠湾と結びつかなかった。単なるハワイの観光地としか思わなかった。ずばり言うと湾を目の前にしてやっと Pearl Harbor＝真珠湾の等式が私の頭の中にわき上がった。陸から湾を眺めていると、42年前にあんな大惨事があったとは思えないほどの静けさで、どこまでも濃いブルーの海が広がっているだけだった。日本人（私達も含めて）は、その景色の美しさばかりに気をとられていたが、その横で、真珠湾攻撃の話をしてきたアメリカ人のガイドさんは真剣な眼差しで、当時の状況を語っていた。その声を聞いていると（内容はもうひとつわからなかったけど）、何故か自分たちが責められているような気になった。でもミニシアターで上映された映画を見て、あのアメリカ人のガイドさんの声に力がみなぎっていたのもわかった。

映画を見終わってからすぐに船でアリゾナ記念館の方へ行ったが、先にアメリカ人の団体がいた。その人たちの視線が鋭くそして冷たく感じられた。考えすぎかもしれないが、ただ、にこやかに観光をしているような人たちはいなかった。内心、私も心良くはなかったが、戦艦アリゾナに星条旗がかかげられているという話を聞いたときには、アメリカのお国柄を温かく感じた。

太平洋戦争から終戦そしてその後の42年間の歴史の起こりとなった真珠湾攻撃。このようなことを日本がしなかったら、4年後にあんなにたくさんの人々を死なせずにすんだかもしれない。だけど、今さらどっちが悪いと争っている時ではない。改めて、戦争・兵器の恐ろしさを痛感した。

真珠湾での思い出

真珠湾—太平洋戦争の幕開けの地—

清風学園高等学校 興津 求

第二日目、朝食をとった僕たちはバスに乗ってその地へ向かった。朝早いにもかかわらず、アリゾナ記念館への長い行列があった。

記念館の中に入ると、以外に狭い感じがした。というのも、非常に多い観光客—日本人ばかりでなく、様々な髪の色をした人々が、その中にいたからだ。中に入った後、十時まで一時間以上の自由時間をもらった。

まず、有名な真珠湾を眺めた。初めて見たこの湾は、本当にこの地で多くの血が流れたのだろうかと我が目を疑う程の美しい景色だった。僕は、その景色に心奪われてカメラのシャッターを押さなかった。

そのあと、ジュースを買って来てトランプをしようとしていると、他の学校の生徒が金髪の子供と英語で話しているのが目に入った。楽しそうに話しているこの二人を見て、自分も話してみたいと思い、友達吉田君と並びでくつろぐ外国人と話そうとしたけれど、勇気が出せずにぶらぶらと動き回っていただけだった。

これではいけないと僕たちは話の種を捜していると、海の上に変な物体が見え、これだと心の中で呟いた。僕たち二人は近くに外国人に「あれは何ですか。」と尋ねてみた。すると、一人が「さ

あ、知らないね。」と言って、すぐ後に訳のわからない英語で話してくれたが、二人とももちろん意味がわからず沈黙が続いた。だから「ありがとう」とだけ言って逃げて来てしまった。

この研修で、よくこのような失敗をしたけれども、このことが一番心に焼きついている。それから僕はこのことは失敗とは思ってはいない、むしろよい経験・思い出になったと思っている。これらの経験を通して、僕は一回り成長したように思う。

青少年交流について

明浄学院高等学校 蘇 朱 莉

この交流会で、私たちの学校はおり紙をする予定だったのに、時間の都合でできなくなった。その前夜、私たちはみな集まって失敗のないように一生懸命練習したが、できなくなって本当に残念だと思った。でもその代わりに、向こうの人たちといっぱい話ができて、英語もたくさん習うことができた。最初は向こうからいろいろとしゃべってきて、何が何んだかわからなかったが、その人たちも協力してくれて、できるだけ簡単な単語を使って私たちに理解できるようにしてくれた。私も友だちと一緒に向こうの人たちと会話を交わしたが、自分の言いたい、表現したい単語がたくさんなかなか出て来なくて、いろんな別の単語を使って表現した。それでなんとか通じて、本当にうれしかった。でもちゃんとした一つの文章を言うのはまだまだだめだったので、これからもっとその方面についてがんばっていきたいと思う。

交歓会について

明浄学院高等学校 富 永 和 栄

今回の行事の何もかもが初めてだった私達は、胸を踊らせながら参加した。現地高校生との交流会、どのようなことが起きるのかと楽しみにしていたが、結果は無残なもので、ただ単に現地高校生に振り回されたような気分でした。でも、それは単に私達の英会話力がなかったので、あまり接触できなかったとも言えます。

あちらの学生（現地高校生）は、本当に明るくて声高らかにしゃぐ姿を見て、何か自分の心にホッとするようなものがありました。日本人は、外国人の目から見ると幼く見えると言われていますが、それは、あくまで外見だけの話で、本当のことを言うと、中身は日本人の方が考え方も外国人よりもしっかりしているのでは………とも考えさせられました。

何はともあれ、何のいざこざもなく、みなさん笑顔でそして楽しく無事に終了したことで本当によかった。

「現地高校生との交流会」

明浄学院高等学校 小 梶 幸 世

3年生でインターアクト・クラブが誕生し、まだ、それらしき活動も出来ない内に、海外研修

旅行に参加させて頂いたことに一同感謝致しております。

「現地高校生との交流会」をするために各学校から何か披露する事になりました。ところが、9校の内から時間の都合で清風高校と我が明浄の2校となり、我が校は、おり紙を指導する事になりました。前夜、私達の部屋に集まり、夜遅くまでおり紙の講習をしましたが、時間の都合で、それも駄目になりました。予定表では、現地の高校生と競技をすることになっていたのですが、すごく楽しみにしていたのに残念でした。

私が思うには、「現地高校生との交流会」は、やっぱり競技の方がいいと思いました。各学校に何人かの現地の高校生が入って学校対学校のゲーム(試合)をしたら、自然にコミュニケーションが生まれると思いました。こちらから「何かしゃべることを考えておいて下さい」というのが、一番しゃべらないでおわると思います。無理にセッティングせず自然が一番だと思いました。それに高校生となれば、半分興味があり、半分恥かしさがあると思います。低い年齢ほど何も考えずに接すると思います。私だけかもしれませんが、へんにプライドをもっていると思うんです。正確にしゃべらなアカン!笑われるなど…日本人の一番悪いところだと思います。そういうところを無くす意味でも、先に格式ばったことより自然の中できどらず友達になった上で、ミーティングをすればもっと楽しく出来ると私は思いました。

交流会でのこと

明浄学院高等学校 山中真紀

ハワイの学生に会ってずいぶん日本の生徒とはちがうなあみなさん思われたでしょう。私もそう思いました。服装もそうですが私たちがガイジンに対しての接し方、もてなし方が私たちと比べものにならないくらい上手だということです。

もし私たちが彼女たちの立場だったらどうでしょう?たぶん彼女たちほどうまくは出来ないと思います。

私たちなら、ガイジンを見ただけ、近寄ってこられただけでこちらから逃げてしまう人も少ないのではないかと思います。

やはり「人種」のつぼ、アメリカです。

彼女たちはそんな態度を私たちに一度も見せませんでした。私たちはそういうところに感心してしまいました。

それに、誰に対してもやさしく親切でした。

学校へ行き、生徒を見ていろんな国の人があるなあ。とも思いました。

日系と思われる子・白人・黒人・これこそ国際学校です。すごくうらやましかったです。

ゲームの中で、日本の国歌を歌うところがありました。ネイティブの英語に四苦八苦していた私たちも歌を通して何だか気持ちが一つになれたようでした。今でも覚えています。歌は世界の共通語だとはこのことだと実感しました。

すごくいい思い出が出来てうれしいです。またいつか、こんどはもっと英語に磨きをかけて、彼女たちと会いたいです。

青少年の交流

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 伊部 雅子

3日目の午後、ハワイの高校生と交流会があった。昨年は中止。今年はどうなるかと不安だった。今回はハワイの生徒の皆さんで私達の歓迎の準備やゲームを考えて、二十人以上もの人が参加して下さった。

講堂に入るとすてきな貝がらの首飾りをかけてもらった。そしてミセス・バーバラが私達にもわかる、ゆっくりとした英語でホームステイの話をして下さった後で、8つのグループに分かれてゲームを行った。そのゲームとは、英語の質問が書かれた紙を読み、独力で英語を使わずねたり、調べたりして答えを求める—いわば、実地英語訓練である。各グループに2・3人の生徒がアドバイザーとしてついてくれた。すぐに私は彼らに話しかけて仲良くなり、質問したり、ジョークを言ったりしていたので、力=(?)という中国の人から「あなたは日本人じゃない。日本人はもっとシャイなものだから。」などと言われたが、事実、私以外のメンバーははずかしいのか、とまどっているのか日本人同士でかたまっ歩いて歩いていたのだ。せつかく彼らが私達の為に考えてくれたゲームなのに…!! 消極的な日本人の姿を見て、はがゆく思った。

ミセス・バーバラも言っておられたが、アメリカの学生もシャイなのである。遠い海の向こうからやって来た外国の学生と会ってとまどいもあつたに違いない。それでも彼らは積極的に私達を理解しようと努めてくれた。自分をふさぎ込んでしまつては何もはじまらないという事を、彼らは一番わかっているのだ。学校のカフェテリアに戻ってくる頃には、みんなずいぶんうち捨てて、見ぶり手ぶり会話したり、いっしょに写真を撮ったりして楽しくすごした。

国際時代だ、英会話だと言うけれど、何が一番大事かを彼らは教えてくれたのである。

ホームステイの思い出

清風学園高等学校 小林 貢

今度僕たちがお世話になったワタナベさん一家は、非常に優しく僕たちに接してくれました。夢のような楽しい時間はあつという間に過ぎ去ってしまったと言っても過言ではないように思います。ワタナベさんの義父、つまり奥さんのカーリンさんのお父さんのケイジさんに長年勤めていたパイナップル畑に連れていってもらって取りたてのパイナップルを食べさせてもらったことや、末っ子であるランスのサッカーの試合を応援したこと、アロハスタジアムのフリーマーケットに連れていってもらいヤシの実のジュースを飲んだことなど、例をあげるときりがありませんが、中でもホームステイ最終日にあつたご近所の人たちとパーティーは、絶対に忘れることのできないすばらしいものでした。

このパーティーは、ワタナベさん一家が主催したものであることや、ネームビンゴと呼ばれる、質問事項にあてはまる人のサインをもらう欄で「私は外国で生まれたした。」という欄があることなどを考えて、明らかに僕たちのためにという意味が含まれたものでしたが、このビンゴのおかげで気軽にご近所の人たちと話ができて、本当に楽しいパーティーになりました。

また奥さんのカーリンさんは弁護士でもあつたのですが、外食のときに食べながらいつ弁護士になろうと決心したのかと尋ねると、君たちと同じ高校生のときになろうと思ひ、一生懸命に勉

強しだしたということを知り、自分の身に照らし合わせて身が引き締まる思いがしました。

たった3日間のホームステイでしたけれども、僕にとっては感動しっぱなしの3日間でした。ただ一つ最後のお別れという時に、ほとんど言葉がでてこなかったということだけが残念です。いつかきっと、うまく英語をしゃべれるようになった自分をワタナベさん一家に見てもらいたいと思います。

ホームステイ

明浄学院高等学校 山中真紀

ホームステイはこれで2回目です。いつも感じる事なのですが、もてなし方がすごく上手だということ。

前の家ではいきなり玄関に WELCOME / MAKI. と大きくはり紙があってびっくりし、今回も家についたら大きな花をいただきました。

それと家の仕事を子供たちがよくすること。

日本の子供よりずっとずっとお母さんを助けます。これは私たちも見習わなければなりません。何か一つは自分の仕事をもって、毎日欠かさずその仕事をしています。小さい子供でもその子なりの仕事があるのにはびっくりしました。

それから何に対しても感謝の気持ちをもっているということ。

食事の前のお祈りは重大で、神に感謝してから食べてました。日本だったらすててしまうかもしれない物でもお父さんが直して使ったり……。

アメリカも日本と同様、物のあふれている国ですがどこか日本とはちがってました。

まだまだ見習う点はたくさんあるのではないかと思います。

私はこういうアメリカが大好きです。

ホームステイを振り返って

清風学園高等学校 吉田宝

先輩から聞いていたように、ホームステイに入るまでは気候は南国そのものだが、自分の周りには日本人ばかり、というなにか妙な雰囲気があった。しかしいざホームステイに入ると、そのような事は吹き飛んでしまった。

僕達の泊まった家は五人家族、あと近くにおじいさんとおばあさんが住んでいる家庭だった。おじいさんは日本に滞在された事がないのに、非常に上手く日本語をお話されるので大変驚ろかされた。このおじいさんのおかげで、パイナップル畑の見学等、大変有意義なホームステイになったと思っている。

あと少し残念だと思った事が二つある。一つ目は、僕達が家族の一員としてではなく、『客』として受け入れられた事だ。何か手伝いをしようと思っても「いいから、座ってなさい。君達はゲストなんだから。」と言われて、ほとんど手伝いが出来なかった。二つ目は、言わずと知れた英語力の問題。いたり尽くせりで、お土産までいただき、大変感謝しているが、それをどう表

現して良いかわからず、別れる時、とても悔しく、情けないと思った。だが、いつかこの気持ちをすっきりとはらしたいと思った。語学の大切さを痛感させられた。

最後に、このようなすばらしい機会を僕達に与えて下さった方々に心から感謝し、今後立派な国際人として世の中に貢献出来るような人間になれる様に努力していこうと思う。

ホームステイでの思い出

清風学園高等学校 露木雄次

全く緊張感のない飛行機の中。周りには学校の友達があふれて、全くハワイを感じさせない。しかし、そんな僕達もホストファミリーがむかえにくると突然「英語話せるかな?」と不安になってくるのだった。けれども僕達のホストファミリーは優しくかったので、話しかけるときにはとても易しい英語で話し、聞くときは意味がわかるまで何度も聞いてくれた。家へ帰る途中でヌアヌパリにつれていってくれた時も、僕が「ここへは昨日きました」と表現しようとしているのを、5分以上かけて聞いてくれて、とてもうれしかった。家に帰ると必ず「何か冷たいものでもどうかね」と言ってくれた。とても Family 的な気分になれて、よかったと思う。

そんな at home な雰囲気の中、僕が一番感心したのは、おやじさんはもう60歳を過ぎているのに、息子さん達と野球をしていた事です。それも本格的なソフトボールをやっていた。おやじさんは帰ってくるなり、「どうだ。ヒット2本も打ったぞ!」なんて言うし、歳を全く感じさせない。やっぱり、日本はアメリカのうわべだけをまねしているなど思った。おやじさんはゴルフもやるというし、やっぱり日本とは違うことを初めてここで実感させられた。

僕はこのハワイという土地の一部しかみていないし、人々の一部しかわかっていないと思う。それでこれだけ感心させられたわけです。またもう一度きて、もっとハワイの事を知って帰りたいです。

ホームステイでの思い出

清風学園高等学校 藤木一雅

今回僕達がホームステイの時お世話になったのは、マツモトさんという方のお宅でした。マツモトさんは大変上手に日本語を話される方だったので、言葉の不自由はほとんど感じませんでした。マツモトさん一家は奥さんと息子さんとお嬢さんの四人家族で、現在、息子さんはイリノイ州の大学へ行っているとのことでした。

第一日目は夕食後、隣に住む少年と一緒に映画を見に行きました。映画館に行く前、奥さんが、「今日の映画は簡単な英語ばかりだし、コメディーだから理解できるでしょう。」とおっしゃったので安心していたのですが、映画の内容は、あまり分からず、他のお客さんに合わせて、笑っただけでした。ここであらためて英語力のなさが分かりました。

二日目は午前中、いろいろな景色を見せてもらい、昼食後、海に行きました。海では「ブギーボード」というものを貸してもらって楽しみました。僕達が行った浜辺は、大きなものではなく、人も少なく、日本人はもちろん僕達だけだったので、気分よく泳ぐことができました。その夜は奥

さんが友達を呼んでパーティーが開かれました。奥さんたちが女どうしで何時間もしゃべっていたのでアメリカ人も日本人も女はよくしゃべるなあと思いました。

三日目は朝早から海へ釣りに行きました。海はとてもきれいだし、魚が足のすぐそばまで寄っているというのは、汚れた日本の海とは比べものにはならないと再確認しました。釣りは二時間余りのことでしたが、大変おもしろかったです。今回のホームステイは、ホストファミリーの方が大変親切だったので、大変有意義なものだったと思います。

「ホームステイで出会ったもの」

大阪市立東高等学校 大井 優雅子

海外研修で、一番楽しみにしていたのがホームステイです。二日目の夕方が待ちどおしくて、心がウキウキし、前夜は、ホストファミリーと何を話そうとか、日本料理を気に入ってくれるだろうかなど、とても不安でなかなか寝られませんでした。

ホストと会って「Glad to meet you」といった時、「ああ、これからはこの人の家族の一員になるんだ。」と感じました。

私達のホストはルースという一人暮らしの女性でした。家につくと、まず私達二人に自分が毎日使っているベッドを提供してくれ、自分はソファーに寝るといってくれました。私達はとても心の優しいルースに、少しでも喜んでもらおうと思い、下手だけど一生懸命にそうめんを作り、昼食に食べてもらうことにしました。

ルースはおすしを食べたことはあるけど、そうめんは初めてだと言うので少し心配でしたが、食べてみると気に入ってくれたのか、たくさん食べてくれました。そして「Thank you for the nice lunch」と言われたとき、私は感激して涙が出そうになるくらいうれしかったです。

ルースは、私達に手料理を作ってくれ、私はそれを食べながら、「この時間は何よりもすばらしい一時だ。」と思いました。私は、料理を通じてだけど、人間が本来もっているやさしい心と、出会えたように思います。

心がふれあえて、本当にいい経験といい思い出が、出来ました。この次に来る時は、言葉を使って、もっと意志が通じるようにしようと強く決意させるほど、それは素晴らしい体験でした。

ホームステイ

大阪市立東高等学校 山下 真美

行く前から、初めての海外旅行でホームステイが出来るのか、とても心配でした。そして、その心配は的中してしまいました。とにかく話が続きません。どうにかして話題を作って話をしようと必死になるのですが、会話がすぐ終わってしまうのです。その上、私は英語なんて余り話せませんし、相手の言う内容を理解するのもひと苦労です。ホストファミリーには本当に申し訳なく思いました。そして話す度にもっと英語が上手に話せたら、と思いました。ホストファミリーの人達が逆に私達に気を使って、自分達は日本語が理解できずにすまない、とまで言ってくれました。このことを言われた時、心がじーんとしました。下手なりに一生懸命に話そう、と思

わせてくれました。それから少しは会話が続くようになり、楽しいホームステイが出来ました。ホストファミリーは私達をいわゆる観光名所には連れては行ってくれませんでした。他の友人達とは異なる素晴らしい体験が出来て逆に嬉しかったです。今考えるとあの時のつらいと思ったことさえも、楽しい思い出です。

それにフェアウエルパーティでやさしい言葉をかけられた時、すべてのことが思い出され、泣き出してしまいました。同じ思いで泣いている人が他にもたくさんいたようでした。最後に、ホストファミリーが「結婚したら新婚旅行でハワイに来て訪ねてきてほしい。」と言ってくれました。ホストファミリーのやさしさが伝わってくるような気がしました。ホストファミリーにはどんなに感謝しても感謝しきれない気持ちです。本当に楽しい、生涯忘れられない思い出が出来ました。ありがとうございました。

ホームステイで……

四天王寺高等学校 條 智美

私のホームステイ先は軍人の方でした。新しい人が来るとパーティーを開く習慣があるそうで、私もホストファミリーの友達の家でスパゲティパーティーをして頂きました。

もちろん約二十名ほどの参加者は全員軍人です。そこに韓国人の方がおられて、私はその方と少し話をしたのですがその話について書きたいと思います。

その方はこうおっしゃいました。

「多くの日本人が毎年ハワイに来ている。その為、ハワイのテレビ局やラジオ局は日本人向けのプログラムを組んで放送している。ハワイは第二の日本のようだ。」

その方はあまり批判的に言ったのではなく、むしろあきれて言っているという感じを受けました。しかし、私はそれまでの浮かれた気分も冷めてしまいました。今までそんなことを考えたこともありませんでした。もちろん日本人が多く訪れるので外国という気がしないなあとは思っていました。でも少し郊外に出ると日本人はいないので、ダウンタウンに住んでいる人には疎まれているだろうとは思っていましたが、日本人のあまりいない郊外ではそうでもないだろうと甘く考えていました。

日本人を歓迎してくれているのは現地人ではなく、日本人を相手にしてお金もうけをしている業者だけのようだ、そんな事を思うと悲しくなりました。日本人はお金でない何かもっと大切なものを忘れていないのでしょうか？

このままでは日本人はもっと嫌われる、私達が何とかしなくては……今、本当にそう思っています。

ホームステイ

四天王寺中学校 羽 柴 菜津子

8月25日、ホームステイ先の家に行ってその夕方、近所でスパゲッティパーティーに呼ばれま

した。ホームステイ先では、新しく来た人を歓迎するのにスパゲッティパーティーを開くそうです。

1つ発見した事は、日本の子と違ってそこの子は、とても人なつっこい事です。

8月26日、朝からホームステイ先のおじさんが、マラソン大会に出場するというので応援に行きました。その日はとても忙しくて、それから家に帰り海へ行きました。そこでもパーティーがありました。パーティーなんて、日本ではあまりない事なのでとてもうれしかったです。

海の波はとても高く、とても泳げないというので、私と條先輩は浮輪のような物につかまっていた。でもすごく波が高く、ちょっと気持ち良かった。それから2・3時間ゆっくりして帰りました。

帰る途中、パイナップル畑とさとうきび畑を見ました。日本とは比べられないくらい大きさが違っています。車の中は、クーラーは効いていないけど、窓を開けると充分涼しかったです。車の中ではいつも寝ていました。

その日、帰ってからはMTVを見ていました。さすがに疲れたのか、9時半頃になるとまぶたが重たくなり、10時までテレビの前で眠ってしまいました。それから起きて実際に寝たのは11時をまわっていました。でも楽しい1日でした。

そしていよいよ8月27日、ホームステイ最後の日です。教会にも連れて行ってもらったしとても忙しかったけど、大変楽しかったです。それから、ホスピタリーセンターに行くまで、デパートで買い物をしていました。高かったけれど、欲しかった物はちゃんと買っておきました。それから、車で、ホスピタリーセンターまで行きましたが、予定の時間より1時間も前に着いてしまったので、たいくつでした。

この3日間は、私にとって文章では表しつくせないほど、大切な時間だったと思っています。今度又ハワイに来て、ホームステイする機会があれば、また、今回と同じ人の所で、ホームステイしたいです。

本当に楽しい3日間でした。ありがとうございました。

充実したホームステイ

四天王寺中学校 三谷純子

ハワイに来て二日目の昼すぎ、ホスピタリーセンターでの現地高校生との交流会が終わり、ホストファミリーの出迎えがありました。待つ間は不安と期待でいっぱいでしたが、会って見ると気がぬけたように安心しました。出迎えに来て下さったのはお母さんと、一番上の女の子でした。その女の子には下に二人の男の子がいました。

夕方になり夕食のピザを食べおみやげのおてだまと和紙で作った小物入れを渡しました。一番下の男の子が喜んでくれて、とても嬉しかったです。

次の日は一番上の女の子のサッカーの試合を応援したり、買い物をしたり、海へ行ったりしました。買い物は、おみやげ屋さんではなく、現地のひとたちが行く安いお店だったので、ついたくさん買ってしまいました。ひさしぶりの海はこんな塩っからいもののだとは思いませんでした。夕方になりホストファミリーのおじさんのお父さんの誕生日ということで、親戚の人が三十

人くらい集まりパーティーをしました。ケーキを食べたりゲームをしたりしてパーティーを楽しみました。その中に、今日本語を習っている高校生の女の子と話しました。まちがうことをこわがらずいっしょうけんめいに話してくれました。

その夜が終り、ホストファミリーと別れる時がきました。めったに着ない、きつく苦しいゆかたを着て、ホスピタリーセンターへ向かいました。もう会えないと思うと、なにも話せなくなりました。

こんな楽しい変わった体験はそうはないでしょう。今は、ハワイにもう一つ家族がいるような、変な気持ちです。くいのない本当に充実したホームステイでした。

楽しかったホームステイ

四天王寺中学校 松本佳子

「英語はうまく話せるかな。通じなかったらどうしよう。初めはそんな不安ばかりでしたが、ホストファミリーと会って、そんな不安も薄らいできました。

「ここが末っ子のクリスティーヌの部屋だよ。」

そう言われ、部屋に入って、真っ先に目に入ったのが壁を埋めつくすほどのポスター、彼女はロック音楽の大ファンなのです。

初めにクリスティーヌと会った時は落ち着いた感じで私達と同年には思わなかったけれど、ロック歌手の話をしている時や、長電話をしてお母さんに怒られている時の彼女はやっぱり十三才の女の子だなあと思いました。

二日目は、緊張して話せなかった英語もだんだん慣れて来ました。クリスティーヌとその友達にショッピングに連れて行ってもらいました。迷子になりかけたりもしましたが、一番困ったのが、お金です。金額が聞き取れず、そのうえセント硬貨もどれかわからなくて、本当にとまどいました。

三日目は、二人のお兄さんとそのガールフレンド、クリスティーヌと一緒に六人でハナウマ湾へ行きましたが、日本人が多かったです。水がきれいで少し沖へ行くと魚がたくさんいました。魚のいる所は下が岩場なので背は立ちますが、そこまで行くのが大変です。泳げないわけではありませんが、背が立たないとしんどいので、おぼれかけている泳ぎで魚を見ました。テレビで見た景色がそのまま、感激しました。とても楽しかったです。

その日の夕方、いろいろな思い出で胸いっぱいにしてファミリーと別れました。

私にとって初めての海外旅行で、こんな素敵なことが体験でき、本当に良かったと思います。

ホームステイの思い出

四天王寺中学校 松本佳絵

はじめハワイについた時は、日本とそんなにちがいがなかったので、ハワイに来た、という

かんじがなく、あまり感動はありませんでした。

でもホストファミリーの人達とあってその人達の家でいっしょにしゃべっていると急に、ドキドキしてきて「あーハワイにきたんだなあ、と思いました。

私たちのホストファミリーには、同じ年の女の子と2人のお兄さんがいました。

それで女の子とは同学年なのでごく話があいすぐに仲良くなれました。

彼女の名前はクリスティーヌといいとてもかわいい子でした。

クリスティーヌはヘビメタがすごく好きでその中でも、SKID ROWっていうバンドがすきだそうです。

わたしも、そのバンドの写真や歌をきかせてもらっていて、ボーカルの人がすごくかっこよく好きになってカセットを買いました。

お兄さんたちもはじめは、あんまりしゃべらなかつたのでこわそうだったけどしゃべるとすごくおもしろくて親切でした。わからない言葉とかがあったら辞書を持ってきてくれて調べてくれたりしました。

はじめは、気持ちがおちつかなくて、わからない英語がよけいにわからなくて、「あーどうしよう、とかって思っていたけど、慣れてきて簡単な言葉くらいなら理解できて嬉しかったです。

夏休み最後に、疲れたけれどもなかなかできない経験ができて、すごくよかったです。

ホームステイの思い出

四天王寺中学校 和久 亜矢子

ハワイについても、日本人がたくさんいるせいか「ここは外国だ、という実感がなく、ホームステイをすることになりました。

ホストファミリーと会って、話しをする時は、ふだんなら分かるような単語でも、初めて聞くような言葉みたいで、うまく聞きとれませんでした。その場の雰囲気、なんとなく分かる…という感じです。話すほうも、話すほうで「英会話、なんていう立派なことは全くできず、ただ知っている単語をならべて、めちゃくちゃな文を勝手につくっただけでした。それでもホストファミリーは、真剣に聞いてくれて、とても嬉しかったです。幸い私のホストファミリーは日系で、少し日本語を話せました。私達が英語をしゃべらないといけないのに、反対にお父さん、お母さんが日本語をしゃべるといふうになってしまいました。その時、今度いつかまた会える時まで、英語をしっかり話せるようにしないと、そして相手に日本語を話させることはないようにしよう、と思いました。

最初のうちは、このような言葉の壁がありましたが、おり紙やお手玉で遊んだり、いろいろな所へつれていってもらったりしているうちに、言葉はそれほど問題にならなくなりました。

ホームステイでの思い出の中で1番楽しかったのは、お父さんと、お父さんのお兄さんのパーティパーティーです。日本では、あまり考えられないようなにぎやかなパーティーで、親戚の人達など、20人以上が集まりました。中に、日本語を習っている15歳のシェリーがいて、積極的に、私達に話しかけてきました。決してうまいとはいえない日本語でしたが、すごく一生懸命で、私もこれくらい積極的に話せたらな、と思いました。

たくさんの楽しい思い出をつくってくれたホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。

「初めてのホームステイで」

ブール学院中学校 本間 章子

「ホストファミリーの人はどんな人だろう。英語がうまく話せなかったらどうしよう」

ホスピタリティーセンターでホストファミリーの迎えを待っている時の私の心の中は、期待と不安でいっぱいでした。初めてのホームステイなので、わからないことばかりでした。私は出来るだけ英語を話すようにして、ホストファミリーに早くとけこめるように頑張ろうと思いました。

私がお世話になったホストファミリーは、ホストファザー、ホストマザー、それに3才の男の子の3人家族でした。ホストマザーはとても優しい人で、私が英語を聞きとれなかったりすると、ゆっくり話して下さったり、他の言い方に変えて下さったりして、わかりやすいようにして下さいました。私も、辞書を引いたり、ジェスチャーをしながら、少しでも言いたい事が理解していただける様に精一杯頑張りました。そうしているうちに「英語がうまく話せなかったらどうしよう」という様な不安もだんだん消えていきました。そして自分の話す英語にも自信を持ち始めるようになりました。

ホームステイをしている間、ショッピングに行ったり、ドライブに行ったり、色々なことをしましたが、その中でも私が一番印象に残っているのは折り紙で遊んだことです。折り紙は私がお土産として持っていきました。私が鶴を折っていると、ホストマザーも隣に来て、私の真似をしながら一緒に折り始めました。ホストマザーは慣れていないので折りにくそうでしたが、ゆっくりと丁寧に折っていました。鶴の他に、やっこや風船も折りました。3才の男の子はやっこがとても気に入った様だったので私がそれをあげるととても喜んでくれました。折り紙で遊びながら私の小さい頃の話や、他の日本の遊びについて色々話しました。約1時間半程折っていました。折り紙は半分位になっていました。こんなに喜んでくれるのなら、もっとたくさん持って来るのだったと思いました。そしてこんな小さな事でもとても喜んでくれる家族の人がとても好きになりました。

私はこの折り紙のことを「小さな文化」だと思っています。私が「日本の遊びを紹介した」ということだけでも国際交流につながることはないかと思っています。そしてこの「小さな文化」が大きく広がっていった大きな文化の交流になればいいなと思っています。

今回の海外研修は私にとって、とても貴重な経験でした。このようなすばらしい機会を作ってくださった先生方、ロータリアンの皆さん、その他大勢の皆さんに心から感謝しています。

ホームステイをして

浪速高等学校 阪口 哲雄

今回初めてホームステイに参加して、アメリカと日本の身近さを感じた。ホスピタリティーセンターで、ホストファミリーを待っている時の緊張と不安というのは、むかえに来てくれた時の笑顔

と熱い握手で一瞬のうちにふっ飛んでしまい、もう家族の一員になったかのように話しができた。それが僕にとっての一番の助けだった。

僕達のホストファミリーは、奥さんのマーサーさんと一匹の犬だった。奥さんには多くの友人がいて、いつも楽しさを忘れない人だった。気の毒なことに足が少し悪くて長時間歩いたり立ったりすることができず、一緒に観光地まで行く機会が少なかったことが残念だった。

さっそくホームステイ初日には、ヌアヌバリ展望台に行った後、夕食をバーガーショップでとった。その時のハンバーガーの大きさやポテトの多さなど、どれも驚くものばかりで、「さすがアメリカンサイズだ!」と思った。(特にポテトなんか数人分ぐらいはあっただろうか…。)

家に着けばちょうどサンセットのころで、目の前に広がる浜辺へ行ってみれば、何ときれいなこと!赤紫に輝く海と昼間と違って人もあまりいない浜辺に静かに打つ波の音は、今も僕の心の中で鳴り響いている。「本当に異国的だな」と実感した。

夜、写真の見せあいをして、家族や友達の紹介をしていた時、「きれい」とか「かわいい」とかどれを見せても必ず言ってくれて、僕も何と答えたらいいのかまようほどだった。

第二日目には、ペンキ塗りを手伝う経験もした。普通の観光では絶対味わえないアメリカの日常生活に触れることができたのもホームステイならではのと思う。初めて聞くような単語を手振り身振りを見ながら何とか理解していき、それに対して自分の思うことを単語をひっぱり出してきて英文にする。それが相手に通じた時の喜びは、絶大なものだった。そう考えると自分の単語力の弱さをひしひしと感じた。

今回お世話になったマーサーさんには、もう一度心からお礼を言いたい。そしてこんな身近に話すことができ、異国の文化を知ることができることをもっと多くの人に知ってもらいたいと思う。ロータリアンの方々、本当にありがとうございました。

一番楽しかったホームステイ

浪速高等学校 本田 和也

僕は、インターアクトクラブからハワイへ行くのがとても楽しみでしたが、ホームステイをするのだけは嫌でした。その理由は、自分の話す英語が相手に通じるかという事と、ちゃんと英語を聞きとれるかという心配があったからです。でもホストファミリーの人と会ってその心配はなくなりました。聞きとれない時は、親切に何度も話してくださるし、伝えたいことも、単語をならべれば通じたからです。僕の泊めてもらった家の人は、中国系の人で、学生の時に日本にも生まれていたとのことで、日本のことをとてもくわしくお知りになっていました。家はとても大きくプールもありました。でも、水が汚いとのことで入ることはできませんでした。その代わりに、ワイキキへ二度つれていってもらって泳ぎました。ワイキキの海は、とてもきれいで感動しました。でも、僕が一番心に残っていることは、泊めてもらう第一日目の夜の夜に、30人くらいのパーティーに招待してもらったことです。そのパーティーには、色々な人々が来られていました。日本の横浜に海軍として住んでおられた人や、北海道にキリスト教を布教するために住んでおられた人、日本に行ったことのある人も多くおられました。みんなとても親切にしてくださったので、うれしかったです。日本にいと、こんなパーティーになかなか行くことができないのでとても良かったです。ホームステイの家を去る日、僕の泊めてもらったホストファミリーの人は、仕事の

ためにホスピタリティセンターでの、お別れ会に出席できませんでした。僕は、その方が良かったと思っています。ただでさえ別れるのがつらいのに、あんなお別れ会をしたらもっと別れるのがつらくなったと思うからです。今度ハワイへ行ったら、絶対にホストファミリーの人の家をたずねたいと思います。

ホームステイ

浪速高等学校 藤村 慎介

ホストファミリーが迎えに来るまで、僕と本田は落ち着いたふりを装っていた。のんびり「ゲームでもしよう」とか言ってカードを配り終えた時、チャンさんは来た。僕達はホッとした。チャンさんは、ちょっと太めの普通のあばちゃんだった。僕達はみんなに別れを告げ、カードをかき集めると、ホームステイに向かって出発した。

チャンさん一家は親切だった。車に乗る前に、ガムやキャンディーで作ったレイを首に掛けてくれた。車の中で、言いたい事を紙に書いてくれたりもした。僕が和英辞典を引いている時も、笑いながら待ってくれました。

僕がホームステイ中に気付いた事は、ハワイの人には「ありがとう」はあっても「すみません」は無いという事だ。あやまる時に「ごめんなさい」と言う事はあっても、何かしてもらった時に、日本人が言うように、「すみません」とは言わない。これは、僕達二人がホームステイ中に最も困った事の一つだ。チャンさん夫妻、つまり目上の人に、軽々しくThank youと言うのは失礼だし、かと言ってSorryでは意味が通じない。しかし実際は、そんな事を気にする必要はなかった。ごく気軽に、Thank youと言うだけで、感謝の気持ちは伝わるのだ。

それともう一つ、僕達の、何か手伝うと言う申し出を断らないという事も日本とは違っていた。日本だと、よそから来た人に手伝いをさせる事は悪い事のように思われているが、ハワイでは、それが、僕達を家族同様に歓迎しているという証しになっているのだと思った。

たった二日のホームステイだったが、日本とは異なる文化と、優しい人達に出会えたという点で、僕にとって非常に有意義な体験となった。

このような体験のチャンスを与えて下さった、ロータリーの方々に心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

チャンさんにもらったお菓子のレイは、まだ食べていません。

ホームステイ

浪速高等学校 椿 和人

日本を出発する前は、ホームステイなんか何とかなると思っていたけれども、いざ、ホストファミリーを待っていると、どんな人かな。英語が通じるだろうか。などいろいろ考えて不安になってきました。それで、迎えにこられたときも、緊張して挨拶もろくにできなくて、今考えてみると失礼だったと思っています。それから、ホストファミリーのマーサーさんがゆっくり話しかけてくれたので緊張もとれて、少ししゃべれるようになり、不安が消えて行きました。

その夜、マーケットへ出かけ、偶然、桐蔭高校の人と出会い、町を案内してもらっているところと聞き、僕達も連れていってもらいました。ゲームセンターへ行ったり、マクドナルドへ行ったりして、何か食べるのかと思ったけれど、入っただけで何も注文しないで出てくるだけでした。そして、ホストファミリーの人の友達の家を招待されて、そろそろ帰ろうと思ったのですが、帰り道がわからなく、もしかしたら帰れないのではと思ったけれど、やっと家に着いてみると12時でした。

次の日、ペンキ塗りがあるので連れられて、手や髪ノ毛にペンキをつけながら、自分なりに一生懸命に塗りました。感心したことは、みんなが集まり、当たり前のようにするという事です。今の日本には欠けていることではないでしょうか。

その後、シーライフパークへ行き、イルカやアシカのショーを見ました。見ていて素晴らしいだけでなく、時々笑わせてくれたので行けて良かったと思います。

帰りに、海岸に沿って、ドライブしながら送ってもらいました。

ばくにとつてホームステイの出来事は、忘れ難いものになり、これからもこの機会に手紙を出して交流を続けたいと思います。

ホームステイ

浪速高等学校 長野 範人

僕が今回の旅行で一番印象深かったのがホームステイです。僕はホームステイ先に行くまで「英語なのにどうしよう。」とか色々思っていました。けれども家についてみるとそんな事はどこかに飛んでいってしまいました。

むこうの家族の人達全員がやさしくしてくれました。わかりやすいようにゆっくり話してくれたりもしました。それにむこうのお父さんに車で色々な所につれていってもらったりもしました。夜にホノルル市内を散歩したり、買物したり楽しい事ばかりでした。それに朝の散歩も最高でした。朝から散歩をするなんて日本ではやった事がなかったので、とても気持ち良かったです。そしてお兄さんに海につれていってもらってサーフィンも教えてもらいました。けど、やっぱりできませんでした。それに最終日にまでも車で案内してくれました。

しかし楽しい中にも一つだけ悲しい事がありました。それは言葉の問題です。むこうの家族が話しかけてくれても、やっぱり理解できない時がありました。そんな時、とても悲しかったです。

今回のホームステイ、大変勉強になりました。またこんな機会があったなら、ぜひ参加したいと思います。

最後に、このような機会を与えて下さったロータリアンのみなさん、ありがとうございました。

「ホームステイ」

浪速高等学校 大政 伸朗

五時十分まだ来ない。早い人は、四時ぐらいから、迎えに来ているのに。先生が、僕達を冷やかし、無理して笑っていたけれど心の中では少し不安であった。二十分にやっと迎えに来てくれた。ホームステイ先のロビンソン家は、迎えの高級車から一目見ただけでわかるような、素晴らしい家族だった。(棚から、牡丹餅)、とこの時からホームステイしている間、何回も思ってしまった

た。後には、先生や友達のみならず恨まれるはめになってしまった。外人の家にいっしょに、三日間も生活する僕は、とても怖かったが、後から考えてみると一番のよい思い出となった。車の中では、少ししか話すことができず、これから先どうなるのか不安であった。家に着き、まず家族の人たちの紹介で、トム・クルーズにそっくりの、ロビンソン Jr や娘さんの、かっこよさや美しさには、さすがアメリカを感じさせた。その後、カイルアの海を Jr が見せてくれた。とてもきれいだった。ただそれだけであった。家に帰って Jr と、なぜかファミコンをしていた。その時、僕は世界の共通性を感じた。後から考えて見ると Jr には、サーフィンを教えてくれたり、部屋を借してくれたら、いろいろと世話をかけた。夜はお父さんを中心に会話をして、言葉が通じない所もあったが全体的にはお互いわかったと思う。朝は、まるで英語の授業時間中に目がさめたような感じがし、ホームステイをしていると実感した。二日間のあいだに、ロビンソン夫婦が、アロハタワー、豪華客船、ダイヤモンドヘッドなど、ハワイの観光地は、すべて見たと思うぐらい僕達を案内し、満足させてくれた。

僕は、ロビンソン夫婦がこれだけしてくれたのに対し、英語をあまり話すことができなかつたのがとてもやさしかった。今度来る時には、うまく話せてロビンソン家族の、親しさと思いやりに十分にこたえられるようになってから、ハワイを訪れたいと思っている。

「さあ、手紙を書かなくっちゃ」

このような機会を与えて下さったロータリアンのみなさんに心より御礼を申し上げます。有難うございました。

「ホームステイ」

明浄学院高等学校 小 梶 幸 世

私は、今回のホームステイで二度目でした。一回目のホームステイは、中学の時で1ヵ月もあつたので、言葉が通じるかすごく心配でした。でも今回のホームステイは、言葉の方はそれほど心配しませんでした。英語がばっちりだと言うのではなく、一回目のホームステイの時もそうだったし、この4年間に何人も外人を受け入れた時もなんですが、きっちりとした英文をつくる必要はなく、単語だけ並べても十分に理解してくれました。自分でいうのも変ですが、一度目よりも二度目の方が、かなりホストと話ができた満足しました。

ただ、一度目のホームステイの時は、ほとんど話すことが出来なかつたので、家でわからないテレビを見ていたものですが、私自身今回のホームステイをする前に、目標を持っていました。それは、積極的に自分から話してどこかへ連れて行ってほしいとか、自分から何々したいということでした。もちろん、ハワイへ行く前にいろいろと調べましたが、私が行きたかつたところは、ホストやホストファミリーなどにすごく迷惑をかけてしまったと思いました。

私は、おみやげにいろいろなものをもっていきましたが、時間がなく出来なかつたものもいくつかありました。それらを是非したかつたのに…。それだけが心残り残念です。それらというのは、日本料理をしたかつたのと紙芝居をしたかつたことです。紙芝居は、自分で絵をかくともっとよいのですが、時間がなく習いものの先生にかりました。結局、一番やりたかつたことが、ホストやホストファミリーにできなかつたのが残念でしかたありません。もう一泊ホームステイをさせていただければ幸いです…。

ホームステイについて

明浄学院高等学校 蘇 朱 莉

私たちを迎えにくるホストファミリーはどんな人たちだろうと、待っている間いろいろと想像した。ハワイにはいろんな国々の人が住んでいることがわかっていて、でも迎えにきたのは中国系の人とは思わなかったが、みな英語をしゃべってたので助かった。一日目の夕方にスーパーマーケットにピザを買いに連れて行ってくれた。いっぱい買ったので、「手伝いましょうか。」と尋ねたら、すぐに「ありがとう」と言って渡してくれました。この時なんとなくうれしかった。車で家に戻ったら、もう5時すぎだったので夕食の準備を始めていたが、私たちに手伝わしてくれなかった。その夜ホストの娘の二人に大学のミニコンサートに連れてってもらい、その後もアイスクリームを食べながら、楽しんでいて。翌日になると、ご飯の用意を手伝わせるようになってから、いっそう家族という感じがした。この日もあちこち連れて行って貰って、特にビーチで一緒に遊んだことがすごくいい思い出になった。夜はあの人たちの友達が来ることになって、庭でパーティーをして、そこでいっぱい話が出て、日本のこともたくさん聞かれて、とにかく会話がとても楽しかった。その後は、庭で卓球をしていて、みな順番に楽しんでいて。とうとう別れを告げる日がきて、パーティーのあと、写真を撮って、バスに乗った。

ホームステイで

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 長谷沢 覚

まことにまったホームステイが始まった。僕達のホストファミリーの家は、パールハーバーの近くで、ホストのおじさんの職業は軍人で、軍艦の艦長をしているそうだ。軍隊と全く縁のない僕にとっては、驚きでいっぱいだった。僕達の第1の失敗は、家族の写真を忘れた事だ。ホストのおばさんは、それはとても残念がっていた。海外研修の説明会で、きいていたのに。これはとてもいい経験になったと思う。これからホームステイしようとする人には、ぜひともおぼえておいてもらいたいものだ。ホストファミリーの家には、14歳の男の子がいた。名前はマイクといい身長は僕よりも高く180cmはあった。初めてマイクとあった時は、あいさつしかできず、何もしゃべれなかった。でも2日目の朝、おじさんとマイクと僕らでバスケットボールをしに行った。僕もバスケットボールが好きで、みんなといっしょにプレーして汗を流した。「ナイスシュート」とか「パス、パス」とかいつているうちに、マイクと本当に仲良くなれたと思う。やっぱり、いっしょにスポーツとかすることは大切な事だと痛感した。言葉なんかより先に、いっしょに行動することが、国際交流の第1歩ではないかと思う。

難しい英語を無理して使わなくとも、簡単な英語で大体の事はわかってもらえた。だから恐れずに、どんどん話をしていくことも大事だと思った。外国の人達は、わかるまでちゃんと話を聞いてくれて、とてもうれしかった。でも、もっと親しくするにはやっぱり高度な英語が必要となってくる。もう少し英語が話せたならと思うことがあった。でも十分友達になれたと思う。2泊3日という短いホームステイだったけど、人生において大変重要なものであり、貴重な体験になったと思う。別れはつらかったが、文通もして一生の友人となっていこう。また、お金をためてハワイまでホストファミリーの皆さんや、お世話になった方々に会いに行きたいと思う。

ホームステイについて

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 中野 聖士

私にとって海外でのホームステイは初めての体験であったので、最初はどうなることやらと少し心配でした。ステイした家はホストマザーと小さい子供が2人の家庭で、ホスピタリティセンターから家までの車の中、最初は無言であったがホストマザーが海軍の人で、我々がパールハーバーに行った事のかたことの英語でしゃべると、そこから話が始まり、家に着いた頃には、かなり話せるようになっていました。家に着くと自分達の部屋に案内され、ダブルベットで一緒にステイした者と寝ることになったのは、すこし驚きだった。その日は夜まで子供達と遊んだ。子供達も私によくなついてくれて、とてもかわいかった。寝る前になってホストマザーが私達に「明日は私は仕事にいかないといけない、私の友人にあちこちにつれていってもらいなさい、あさっての朝かえります。」と英語で言った。そして次の日の朝、待ちあわせ場所にいったが、友人の姿は見えなかった。50分ほど待ったが、こないのであきらめて帰った。本当に困った事になったので、本当に困った時にしか、かけてはいけないという電話をかけ先生に助けを求めた。そして夕方までホテルにおりその友人という人が誰かわかったのでホテルまできてもらった。わかったことは結局、私達がきいた待ちあわせの時間と一時間のずれがあったからだった。夕飯はその友人の方の家でいただいた。

その時その友人に「まちあわせ時間ピッタリにくるなんてクレイジーだ、ここはハワイだ」と悟ったような事をいわれたように思った(?)ので、「そりゃないよ!!」といたかったが英語がわからなかったので一応うなづいておいた。これも経験だ!! 次の日の朝、家族が帰ってきたので、海につれていってもらった。やっと念願のハワイの海で泳げた。私達が泳いだ海はそんなにきれいじゃなかったようだ。そしてホスピタリティセンターに送ってもらい私の短いホームステイは終わった。いろいろ盛りだくさんで、とても楽しく貴重な体験ができた。もう一度ホームステイをしたいと思う。

ホームステイ

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 田中 秀宜

私たちが今回の研修で最も楽しみにしていたのがホームステイでした。そのまちにまった初日、ホストファミリーがレイをもって次々と私たちを迎えに来ましたが、なかなか私のホストファミリーが来ません。だんだん不安になってきてイライラしてきた時にやっと来られました。いきなり英語で話してくるので、少し驚きました。そして家へ行きました。着くとすぐにパールハーバーにある海軍の港へ連れて行ってくれました。ホストファザーはなんとNAVYに勤務していました。夕飯はテキサス出身ということで、TACOSができました。一回食べるとやみつきになりそうです。その日はぐっすり寝わり、次の日、泳ぎに行きたいと言ったのでハナウマビーチへ行きました。ハワイの海はきれいで、魚が足もとを泳いでいた。これだけでもハワイに来たかいたなあって思いました。夕方、すぐ近くの家でバーベキューをしました。アメリカンの作る料理はパワフルでおいしかった。その夜、大人たちは何してるんだろうと思っていたらUNOを掛けてしていたので、私たちはビデオを観ていた。思いだすと昨日の晩もしていたように思う。そ

の日は夜少しおそくまで遊んだ。次の日は夕方にはもうお別れなのでそれまでフリーマーケットへいくことにした。スタジアムのまわりに一面に店が出店していて見てまわるだけで、何時間かかるかわからないほど広かった。日本人向けの店とちがって現地人向けの店なので安かった。そうこうしているうちに、もうお別れパーティーがきてしまった。とても陽気で親切なホストファミリーたちを一生忘れないだろう。あの時、あの一瞬を胸にきざんで幕はとじた。

貴重な体験

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 横山佳世

「なるようになる」どうあがいても、開き直るしか方法がなかったこの時、不安を隠しきれず、ひきつった顔で笑っていた私は、しばらくすると、ホンダ・アコードという日本車にゆられていました。——2人の予定だったホームステイが、1人になってしまったのです。

「この3日間さえ何とか乗り切れば…」という心持ちで始まったホームステイの3日目、ホストファミリーは私を教会へ連れて行ってくれました。そこで私は厚く歓迎され、もてなされました。教会でのミサが終わるとみんな外へ出て、用意されたクッキーやジュースを食べながら知っている知らない、は関係なく1人1人と話しをするのです。私も話しかけられ、決して流暢な英語ではなかったけれど、相手がゆっくり話してくれたおかげで、何とか会話する事が出来ました。この時私は、見習わなければいけないと思いました。日本ではあまり見られない光景です。日本人ばかりの中にこういう場を設けても多分、知っている人同士でかたまってしまおうでしょう。大袈裟かもしれませんが、こういうところで日本人の国際性の無さが伺われます。

コミュニケーションを大切にするみなさんと、そしてみなさんの心の大きさに触れる事が出来、本当によかったです。貴重な体験をどうもありがとうございます。

ホームステイ

明浄学院高等学校 北本真理

ホームステイはとっても楽しかったです。

行った日は、ほとんど相手の話している意味が分からず、すっごく苦労しました。夜ベッドに入って「早く帰りたい、って泣いてしまったけど、最後の日は、ああ帰りたくない!!」と思いました。私が、ホームステイさせてもらった家庭では、6才の息子さんとずーっと遊んでいました。言葉が分からない所もあったけど、とっても楽しかったです。

サッカー（息子 KUN の）試合を応援に行ったり、一緒におばあちゃんの家プールにつれていってもらったり、とても楽しかったです。

私はホームステイしている間中、言葉は、ほとんど単語だったけど少しは英語になれて良かったんじゃないかと思っています。

フェアウェルパーティーのあとホストファミリーが帰っていく時、とても悲しくずっと泣いていました。最後に言う言葉も心の中で考えていたのに、泣いて何も言えなかった。

また、ハワイに行ってホストファミリーに会いたいです。

交流会の感想

現地の高校生との交流会は、なかなか楽しかったです。

言葉は、ちゃんと伝わったかは、分からないけど、一応会話になっていたと思います。

現地の高校生は、私達に、くらべてすっごく自由な感じでいいなあと思いました。理由は、ほとんどの娘が、ピアスをしていた事、それからお化粧をばっちりしていた事です。日本だったら耳に穴をあけることなんてとんでもないし、学校に、ピアスをしていくなるとんでもない事なのに……。ハワイの娘達はあたりまえの様にしていた所にすっごくビックリしました。

交流会は、いろいろな所を歩きまわって、英語でいろんな事を質問する様に言われたけれど、ほとんどの人が単語のつづりや意味が分からなくて辞書とかを使おうとして、ハワイの娘に「NO」って注意されていました。ほとんど単語だけの会話だったけどすっごく楽しかったし、勉強になったなあと思いました。

ホームステイ

明浄学院高等学校 谷 舞 千 栄

私が行った所のホストファミリーは、たぶん中国系の人だと思います。すごくいい人で、言葉には表せないくらいすてきな人たちでした。家族の人は、両親の方と、双子の女の子のキャンディ・リサそして妹のローリーの5人、ホストファミリーのお母さんは、すごく私達に気をつけてくれて、「自分の家と思ってリラックスしてね。」と言ってリラックスの連発でした。だからすごくおちつけました。ちょうど、お母さんとリサが日本語を勉強していて、時々お母さんが日本語で、「これは何て言うの」とか「これはこう言うんでしょ?」とか言ってこっちをおどろかせながら、おちつかせてくれました。私達が気をつかう以上に、家族の人が気をつけていたと思います。お皿とかを洗いましょうか、とか言うといいからテレビでも見ててとか言われてしまいました。でもちよくちよく、ごはんとかを運んでいました。私はホームステイをするのはこれで2回目、初めは中3の時でした。その時の家族もすごくいい人で好きだけど、中3の時にしたホームステイと今回のホームステイは少し違いました。何が違うかは、はっきりわからないけど、中3の時は、家族の一員になれなかったけど、やっぱりどこかであまえていた様な気がします。今回も少しはあまえていたけれど、たった2日だったけど、家族の一員になれた様な気がしました。家族の人は、もちろん英語しか話さなくて、理解できないとかおもうけど、私のしどろもどろの英語の単語をならべた様なでも、一生懸命にわかろうと聞いてくれるし理解しようとしてくれました。だから私も理解しようと努力すると、お互いだんだんと理解できたと思います。話している言葉や、生活の習慣が全然ちがっていても、お互い理解しようとしている人どうしなら、きっとわかり合えるというのが、ホームステイをしてわかったような気がしました。本当に、たった2日の間だったけど、貴重な経験ができてよかったと思います。その家族の方とは、これからもずっと文通を続けたいし、また会いたいと思います。

交 流 会

交流会は日本で思っていたこととちがっていたので、少しおどろいた。みんながテーブルとかのまわりについて、それで話しをしたり、みんなでゲームとかをしたりするのかと思っていたけど、

みんなでどっかに行って、プリントの質問に答えていくといった形で、日本では考えられなかった交流会だったので、こういう交流会のしかたも楽しくていいものだなと思った。はじめ交流会に来てくれた子が、少し私達の人数にしては少なかったと思う。だから、交流ができたのはほんの一部の人だったし、もう少しゆっくりした時間と、もう少し多くのむこうの子がいてほしかった。でも、もう少し自分で積極的になってもよかったかなと思ったりするけど何となくどこの学校もかたまっていて、最後は日本人どうしが多かったかなと思った。たぶん最後の方は、ホストファミリーの人が迎えに来てくれたからと思う。ちょっとかわった交流会だったけど、楽しかった。ホストファミリーといっしょにしたフェアウェルパーティーもすごく楽しかった。

ホームステイ

明浄学院高等学校 山本典子

現地高校生との交流会とは反対に、ホームステイはとても心配でした。なぜならホストファミリーが出むかえにくるまでどんな人が来てくれるかわからないからです。ホストファミリーの顔は知らないし、名前と家族構成しか教えてくれないので不安です。まるでみなしごでどこかの家にもらわれていくみたいな気分になりました。次々と私達の仲間が、ホストファミリーといっしょにホームステイ先に行くのを見てみると、さみしくなります。とうとう5人ぐらいしか残ってなくなって私はとても心配になりました。やっとホストファミリーの女の人がむかえにきてくれた時私は安心してたおれそうになりました。

私達がお世話になったのはミス ROSE と言います。決してお年寄りではありません。私達のお母さんぐらいの年のかたでした。とても気さくでやさしくて最高のホストファミリーです。ミス ROSE は私達二人をショッピングに連れて行ってくれたり、映画館にも連れていってくれました。一つ残念なのは、せっかくハワイにきたのに一度も泳げませんでした。ミス ROSE はあまり泳ぐのが好きではありませんから……。映画館では「バットマン」を見ました。日本と違って、たてに日本語の訳が書いてなくて、たいへんこまりましたが話がおもしろいので次々と画面にひかれて内容もわかったような気になりました。ROSE はとうとう私達と別れるとき、チョコレートをくれました。ROSE にもう一度会いたいです。

全体の感想

私は最初ハワイに行って一番おどろいたのは、日本の3倍くらいの広さの道路が全体に広がっています。そして、日本語のたてふだはなくすべて英語のたてふだばかり。そして日本では考えられないくらいヤシの木やいろんな種類の木がざらりと並んでいるのです。ハワイの空港につくと女の人が私達に花のレイをかけてくれました。本物の花なので首につけたとき、とても冷たかったです。でもとてもよい花のかおりがしました。気分はすっかりハワイアンです。

ハワイでの一番の反省は、ショッピングにばかり夢中になってまわりの景色とかあまり見てなかったことです。唯一私が覚えているのは、夜のネオンがとてもきれいだったこと。あのネオンのきれいさを見たらとても日本のネオンの明かりなんか見れたものじゃありません。一番印象に残っているのは、インターアクトの会員でいっしょに行ったポリネシアダンスです。とてもだいたんかつアクションがあって日本にもこんな芸人がいたらいいのと思いました。

先生方にはとても迷惑をかけたと思います。私達の世話の為にハワイに来たのにちっとも楽しくなく、修学旅行の延長みたいに感じたと思います。本当にめんどろをかけてすいませんでした。インターアクトクラブのスポンサーのロータリークラブの人達にもたいへんお世話になりました。違う学校のインターアクトの人達にもめんどろをかけたことがあると思います。本当にハワイの研修は、私を大人に一步近づけました。

ホームステイをふり返って

金光八尾高等学校 小 沢 由 佳

インターアクトクラブに入って数ヵ月たち、8月にはハワイ海外研修に参加することになりました。24日から30日の研修のうち、25日、26日の2日間はホームステイでした。出発までは、いろいろ心配したけれど、ホノルル空港に着き、青い空の下でレイをかけてもらった時、ああとうとう私もハワイへ来たんだと思いました。その時には心配していた事も一気にふっとびました。そして私の目に一番最初に入ったのがカラッとした青空とムームーを着た黒く焼けた小太りのおばさん達でした。そして2日目にホームステイ先のジョンソン家で生活が始まりました。ジョンソンさんのお宅は少し町から離れた田舎町で、山も近く緑がたくさんありました。家族の人達は白人系でお父さん、お母さん、子供が男の子（12才）女の子（10才・8才・6才）の6人家族でした。しかし残念ながらお母さんと6才の女の子は日本へ旅行中のためお会いできませんでした。だから私達も一緒になって家族の人達と食事を作ったりしました。お父さんの職業は大学の教授なので子供達のしつけには厳しく、時間にはきっちりした方でした。女の子達はとてもかわいく、第一声が「Hi! Call me Ley」「Call me Melany」でした。私達は「OK!」と答えました。それからは見ぶり手ぶりで単語をならべながら、どうにか会話ができました。私達は食事後、食器を一生懸命洗っていると、となりで「NO! NO!」といわれたのでなにかな?と思ったら食器洗い機の中に全部入れなさいということでした。私は時間を有意義につかうんだなと感じました。そしてプールに行ったり食事につれて行ってもらったりして、楽しかった2日間があっという間に過ぎてしまいました。

最後のフェアウェルパーティの時に私達は英語で感謝とお礼の言葉を書いた手紙をわたしました。たいへん喜んでいただいて今度はもう少し長く滞在できるように、ちがう方法（留学）で行きたいということを両親にお願いしました。最後になりましたが、引率して下さった先生方は言うまでもなくロータリーのみなさんには大変お世話になり、ありがとうございました。

ホームステイ

金光八尾高等学校 岩 井 栄美子

私達のお世話になった一家はパパさんママさん、そして17才のSharonさん、14才のJaredくんの4人家族だった。ファミリーは私達を快く、そして温かく迎えてくれた。会うまでは「自分の英語がどこまで通用するだろうか。」と不安で一杯だったが、いざ会って話してみると単語を並べるだけでもなんとか通じたのとファミリーがジェスチャーを交えてゆっくり喋ってくれたので、さほど気にかからなかった。ただ私

達の発音が間違っているらしく、伝わりにくい言葉が多かった。

私達は2泊3日のほとんどを Sharonさんと共に過ごした。彼女は何人もの友達に私達2人を『日本の友達』として紹介してくれた。彼女の友達はみんな明るくそして仲がよかった。アメリカには人見知りという言葉が存在しないのかと思われる程で、初対面のはずの私達もすぐ受け入れてくれ、すぐに友達になることができた。Sharonさんやその友達は私の目にとっても生き生きと映った。日本人には見られない開放的で自由な所がとても魅力的に思え、そしてうらやましかった。

ほんの少しのホームステイだったが私にはとても貴重な経験だった。フェアウェルパーティーの最後は「またハワイに来てね。」「手紙書くからね。」という約束をして「See you again、で別れた。私はこの2泊3日を『いい思い出』というだけで終わらせるのではなく、これからの活動のきっかけとなるようにしたい。

「Can I help you ?」

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 中川 仁 史

旅行に行く前から期待していたホームステイは思わぬ方向へ展開していきました。私達のステイ先は Pearl・Cityにある海軍の住宅街の中で、外からは道が一本しかなく必ず検問所を通らなければいけないという所でした。

翌日、ホストマザーは子供を連れて出かけられた後でした。しかし置き手紙に「9時30分にアロハ・スタジアムで私の友人があなた方をピックアップしていい所へ連れてってきます。」とあったので早速行って見たのですが見あたりませんでした。……50分経過、私達は仕方なしに帰ることにしました。「行きはよいよい帰りはこわい」まさにこの言葉通りに私達は思わぬアクシデントにあいました。例の検問所で policemanに「Can I help you」と呼びとめられました。私は「今からステイしている所へ帰るとこだ」と説明すると「パスポートを見せなさい」「あなたを連れて来た先生のホテルの電話番号は？」など聞かれましたが、私の英語がなんとか通じ、パトカーに乗せられてステイ先まで護送(?)されました。ここまで来てパトカーに乗るとはこれっぽっちも思いませんでした。家に無事に着き、先生方に連絡し私達は先生方の待っておられるホテルへ向いました。しかし4時すぎに私達をピックアップしてくれるはずだった方と連絡がとれ5時頃、迎えに来られました。話を聞くと、その方は「10時30分」に約束をしたそうです。せつかな日本人にとっては腹立たしい話しですがこちらではよくこんなことがあるそうです。

今回はこういうアクシデントに巻き込まれいろいろな所へは行けませんでした。アクシデントのおかげ(?)で以前の豪州でのステイ経験を生かし、英語でうまく(?)説明し理解してもらった、これだけでもハワイのホームステイは成功だったと思います。

ホームステイ

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 坂本 岳之

現地2日目、ホストファミリーと対面した。何かデカくて、毛むくじゃらでとても強そうな人だった。少しびびりながら、3人で家にむかった。車の内では、いろいろ話しかけてくれてなんとか間がもったといった感じだった。家につくと、ホストマザーが2人を笑顔でむかえてくれ、

2階の部屋までつれていってくれた。ホストファミリーは2人と犬と猫だけで子供はいなかった。彼らはよても明るく、いつも笑顔でジョークをかかさなかった。ついた日はつかれていたせいか、すぐに寝てしまった。次の日、ぼくらにどこに行きたいか聞いてくれて、海に行くことになった。海といってもたくさんあるようだが、なかでも一番キレイという「シナウマBAY」という所につれていってもらった。そこはたくさんのサンゴがあり魚もいて、水もとてもキレイという最高の場所だった。ただ、そこにもたくさんの日本人観光客がいて、できることなら日本人が少ない場所がよかったなと、かつてなことを思った。3日目、朝の間、フリーマーケットに行き、たくさんものを見て、その規模におどろかされた。それから荷物を整理して、フェアウェルパーティーのあるホスピタリティセンターに行った。食事をして、少し話しをしている間に、お別れの時間になった。少し悲しくなったが、別れの時も、ずっと笑顔でいてくれたので明るく別れができた。3日間のホームステイで感じたことは、ホストだけでなくその回りの人みんなが、優しく、明るく、楽しかったこと、反面私たち日本人は、シャイで内向的であること。また、むこうの人は日本人のようにホンネとたてまえのような裏と表がなく、ストレートで、自己主張をしっかりとしていることなどです。外国での日本人が内向的になる理由に、会話に自信がないというのがあげられる。だからモット英語を勉強し、また会って自分の考えを100%言いたいと思います。

初めてのホームステイ

大谷高等学校 山崎 由加里

今回の海外研修は、私にとって初めて日本を離れる機会となりました。ホテルを一步出てみると外人がたくさん…と言うより私達が外国人だったのですが、日本にいる時はできるだけ避けるようにしていた外国の人としゃべらなくてはいけないなんて、内心とっても不安でした。果して相手の話している事が理解できるのか、自分の英語がわかってもらえるのかどうか。

さて、私と友達の計二人を受け入れてくれることになったホストファミリーの人が迎えに来てくれて、挨拶をかわした瞬間、私は先程まで自分に大丈夫だ、どうにかなるさと言いつつ心臓がドキドキし始めました。最初に見た、あのブルーの目、あれで、もうこの二泊三日は地獄だと思いました。車で家まで行く間、色々質問をされました。この時の質問は、私達に気を使ってくれたのか、簡単な英語だったので何とか会話ができて、これで少し私は落ち着きました。

ホストファミリーは、海軍のお父さん、お母さん、女の子三人の計五人家族でした。みんなとても親切で、つたない英語をなんとか理解しようと努力してくれたり、私達のわからない単語を英和辞典を引いて指さしてくれたりしました。一言しゃべると両方が辞書を引くという面倒な作業が何度も続き、私は自分の英語力のなさを実感しました。でも、ホストファミリーの人達は、いやな顔もせず心から優しく接してくれたのでとても嬉しかったです。

子供達もとてもいい子で、一緒に海で泳いだり公園に行ったりして遊びました。公園で彼女達の友達に会った時に私達を紹介してくれました。

ハワイでのホームステイは言葉の壁で苦しんだものの、とてもいい経験になりました。今度、ホストファミリーの人達に会う時にはもっと勉強して行きたいと思っています。

ホームステイでの感想

大谷高等学校 安藤 仁美

私が行ったホームステイ先の人達は、日系の人だったので、こちらは英語で、向うの人達は日本語でしゃべる様に努力しているといった感じで、言葉で困るという事はあまりありませんでした。

困った事といえば漢字を教えてあげた時に、「意味は何ですか。」と尋ねられてどう表現しているかわからず、迷ってしまった事です。

ホストファミリーは本当に親切な人達だったので、私達の好きなようにさせてくれたし行きたい所にもつれていってもらいました。一番楽しかった事と言えば家族でボーリングに行った事です。その時に、「日本にもボーリングはあるんですか。」という質問をされて驚きました。

そして何よりも印象に残っている事と言えば、海に連れて行ってもらった時の事です。日本では信じられないほど澄んでいて、私達の泳いでいるすぐ側を、魚が泳いでいて餌をあげたりした事なんか忘れられません。

ホストファミリーの家族に、私達と同じ年の高校三年生の女の子がいたので、ずっとその女の子に頼りっぱなしでした。買い物に連れて行ってくれる時はもちろんその女の子が付きそってくれるんですが、もう車を運転する事が出来るというのが、日本とは違っていて驚きました。

食事は、気を使ってくれていたのかほとんど外食で、すべてお金は向う持ちで、私達からは受け取ってくれませんでした。

私は、ホームステイの2日間で本当に貴重な経験をしました。というのは、ハワイでの生活習慣を実際に経験し、家族の一員になれた事です。そこにいた小学校の男の子なんかは、私達にとでもよくなついてくれて、楽しく遊ぶ事が出来ました。

ホームステイは、たった2日間だけでしたが、一生忘れられない思い出となる事だと思います。

そして、このホームステイにあたって企画して下さいました方々、参加させてくれた両親に感謝したいと思います。

ホームステイの感想

大谷高等学校 川端 由貴

「日本で学ぶ英語は死んでいる。」と、よく言われていますが、本当にそうだと痛感しました。ホームステイ先の娘、キミはセント＝アンドリュース学園の生徒でしたので、皆が、ホストの迎えをドキドキしながら待っている時、私達は、キミの友達に囲まれて、学校や日本の事を話し合っていました。驚いたことに、ほとんどの子が日本語を学んでいるのです。「十年やっている。」と言って恥ずかしがっている子もいました。考えてみると、私も英語を六年も学んでいるのです…。キミの車は、日本では走っていない程ボロボロでした。日本は車をアクセサリと見ている事が、多いのに、ハワイでは完全に足として見ている様です。

キミの運転で、私達とキミの友達とで、そのままファーストフードの店に行き、夕食をごちそうになりました。が、こまったのは注文です。英語ばかりで写真すらないので。とにかくサラダバーを注文しましたが、サラダの外にスープ・タコスまでついているのにビックリしました。と

にかく皆、すごく食べます。全くついていけませんでした。次はデザートだと言って、アイスクリームを食べに連れて行ってくれましたがあまり食べられませんでした。その次は散歩。夜ですよ！午後八時はとくに過ぎていました。ホテル沿いの美しい大通りだったので、人気は絶えませんでした。

家に着いて、初めて家族と会ったのは、午後十時をまわっていました。ホームステイの期間中の大部分を外で、キミといっしょに過ごしました。ママの手料理もおいしかったです。最後の夜は、午前二時近くまで、家族と日本人の名前の由来とそれに含まれている意味、物価、ガソリンの値段など、日本をいろんな角度から見て話をしました。私達の気づかない事まで見て私達をハッとさせました。

言葉のハンディにもどかしさを感じました。聞きとれても話せないんです。欲求不満になりそうでした。あの時ほど英語を話したいと思ったことは、ありませんでした。

ホームステイ

大谷高等学校 山田実紀

私のホストファミリーは、軍隊関係の仕事をしている方とその家族が住むことのできる住宅街に住んでいました。マイラというお母さん、そして子供のステファニー、彼女は4才でとても素直なかわいらしい女の子でした。お父さんは現在仕事でアラスカに行っているとのことでした。そしてもう一人マイラの友達でとても日本が好きでキャリーは、私の滞在中ずっと一緒にいてくれました。日が暮れてからは、ほとんど夜中まで色々なことを話しました。ディスコのこと、将来のこと、言葉のこと…。特に日本とアメリカの違いを感じたのは受験戦争と車のことでした。学校から終わってからの予備校のことや休みの日の模試のこと、さらに学歴社会の説明をすると、とても驚いていたようです。車については事故と保険のことが中心でしたが、保険という単語の意味が解らず何度も言葉をかえて説明してもらいました。また事故の処理に関しては相手に過失があれば修理代と治療費ぐらいですんでしまうとのこと、今度は私が驚いてしまいました。

日中はショッピングにも行きました。限られた小使いでたくさん買物をしたいという私の希望で、フリーマーケットに行き、特大サイズのズボンとTシャツをたくさん買って帰りました。でもハワイでは何とも思わなかったのが、日本で着てみると妙に派手に感じるのです。父は喜んで着てくれるのですが、私が少し気おくれしてしまいます。国の雰囲気というものは、見える色までかえてしまうのでしょうか。

マイラ達はもう半年ぐらいでノースウエストへ行くそうです。来年は大学生として彼女達に会いたいと思っています。ステファニーがどんな素敵なレディーになっているか楽しみです。

ホームステイをして

明浄学院高等学校 富永和栄

英会話の出来ない私にとってホームステイなど、とんでもない出来事であった。

ホストファミリーが迎えに来る時間になり、それぞれのファミリーが迎えに来るが、私の名前

はなかなか呼ばれない。不安とあせりと少しのひらき直りが頭の中で手をつなぎ輪を作ってぐるぐる回っていると、「富永、とみなが」と、どのようにして聞いても私の名前、「やっと来てくれた。」胸をときめかせ、緊張したせいか足がどうももつれてならない。足をひきずりながらもご対面して見ると、有無を言わず、日系の方でもなくグアム生まれのグアム育ちのアメリカ人の方でした。一瞬、頭の中が真っ白になったけれど、「うん。まあなんとかなるわ。OK!だけでも通じるし。」という考えを頭の中につめこんで、かくして、私のホームステイの初まりとなりました。

実際、行ってみると、そんなに緊張するものではなかった。辞書を片手に、一生懸命話しかけていくと、それなりに理解して対応してくれていたので何故か私は、日本語を忘れてしまうくらいに英語で話しかけていた。それこそ海やプールで泳ぐということなどはなかったけれど、昼間は、たくさんのショッピングセンター街に連れて行って頂いたり、夜は夜で、テニス・ドライブなど、私達を充分楽しませてくれました。夜のドライブは、都市のネオンがとても美しかったのでぜひともお進めしたいものです。お料理なども一緒に作ったり、私達が作った料理を食べて頂いたり、結構カタコトの英語で笑いが絶えませんでした。

たった二日間でしたけれども、本当に貴重な経験をさせて頂きました。日本で生まれ、十七年間育てて来たけれども、日本では、したこともないことを経験できましたし、何よりも一番うれしかったのは、初めて私の英語が通じた時でした。不安で不安でどうしようもなかったけれど、初めて通じた時は、飛び跳ねたい位の気持ちでした。おわかれの時、我慢していた涙があふれた時、ホストファミリーが、かけてくれた言葉に私は、本当に心からお礼を言いました。

「私に、素敵なお二日間を与えてくれてありがとう……………」と。

この二日間、一緒に過ごした日々を私は、一生忘れやしない……………」

「ごめんネ、CHRISTY」

四天王寺高等学校 小野 登史子

I'm very sorry to be late, で始まる手紙を書いたのは、確か六月上旬のことでした。二年前、私は今回と同じように海外研修に参加させていただき、そして同じように、ホームステイをさせていただきました。本当でしたら、「今までずっと文通が続いています」と、書いている所なのですが、じつは、あまり続かず半年ぐらいで、とぎれてしまいました。こんなに非常識な私なのに、それなのに、今回も温かく、ホストファミリーは向かえてくれました。こんな私はすごく幸せです。そこで、私がすごく感じたことは、ホストファミリーの心の雄大さです。日本人の私ならば、こんなに温かく、向かえるでしょうか!! やはりそこで、日本人とのちがいを今まで以上に感じ取りました。ちょっとした文通で、向かえる方も、向かえてもらう方も、こんなに心が通じ合えるなんて、なんてすばらしいことなんでしょうか。ほんと、いいものを感じます。

ところで、私が二度、お世話になったファミリーを紹介します。構成は、ママ、パパ、そして私と同年のクリスティーです。家族みんなが一つになっていて、やさしく心の温かい人たちばかりです。最初に書いたとおり、私に、アメリカ人のすばらしさを、見せてくれました。こんなにやさしくして下さった、ファミリーになんてお礼をしいのかわかりません。今度はこちらから文通が、とぎれるなんてことはないようにします。もう五年したら、クリスティーに、もう一度、会いたいです。ありがとう・クリスティー。ごめんネ・クリスティー。

フェアウェルパーティーについて

大阪桐蔭高等学校 森本幹彦

ハワイに行って一番現地の人たちが集まり、交流が深かったのがフェアウェルパーティーだと思います。みんなのホームステイ先のホストファミリー達が集まって話をしたり、ごはんを食べたりして、(やっぱりハワイに来てよかったなあ)と思いました。フェアウェルパーティーのときは、ホームステイに行って二日ぶりに友達に合って「ホームステイはどうやった、とか「おもしろかったか、とか二泊三日の土産話をお互いに交換し合い最高に盛り上がりました。

ぼくのホストファミリーは、仕事があり、忙しいからフェアウェルパーティーにはこれなくて、他のホストファミリーに会場まで送ってもらい、パーティーではそのファミリーといっしょに話をしていました。ホストファミリーの人たちは、僕が英語をあまり話せないので、片言の英語で、身ぶり手ぶりで、コミュニケーションをとるのが精一杯でした。でもインターアクターの中には英語をすごく上手にしゃべっている人もいて、うらやましく思いましたが、辞書を片手に必死になって話をしました。フェアウェルパーティーが終わって、ホストファミリーの人達と別れるとき、泣いている人もいて、(二日間のホームステイで、これだけ親しくなれるものだなあ)と思いました。(ハワイに来てホームステイができて、すばらしい出会いと別れが経験できて、本当によかったなあ)と思いました。そしてまたファミリーにもう一度、御礼を言いたいと思っています。

フェアウェルパーティー

大阪桐蔭高等学校 新谷有一

あっという間に2泊3日のホームステイが終わり、ホストファミリーとの最後のフェアウェルパーティーがやってきました。その最後のパーティーには、ホストマザーと3人の子供に参加して頂きました。

まず、すべてのファミリーがそろうまで、ぼくたちは3人の子供と一緒に遊ぶ事にしました。最後の一時を、子供たちと楽しく過ごしていると、すべてのファミリーがそろい、みんなで夕食を食べ始めました。夕食を食べている時、ぼくは(せっかくファミリーともだいぶうちとけてきたのに、もうお別れしないといけない)と思うと、つらくなってきました。しかし、ホストマザーや子供達は、明るく話しかけてくれたので、楽しく最後の夕食を食べることができ、会話もはずみました。でも夕食後、別れの時が近づいてくるにつれて、つらくなってあまり話すことができませんでした。そしてとうとう別れの時がやってきました。ぼくたち2人は、ホストファミリーを車の所まで送っていきました。車をとめてある所に着くと、急に涙が込み上げてきました。そして、ホストマザーと3人の子供たちに礼を言って最後に、「Good Bye」と言って握手をして別れました。それからホストファミリーは、ぼくたちが乗ったバスが発発するまで見守ってくれました。バスの中で、高校を卒業したらファミリーに会いに行こうと決心し、最高のファミリーで最高の思い出になると思いました。

花束みたいなパーティー

四天王寺高等学校 利川陽子

私にとって三度目のフェアウェルパーティー。

ファミリーに会った時、人より三倍の喜びがあり別れる時は三倍の淋しさを味あわねばなりません。

言うまでもなく私には父が2人母が2人、そして同年のクリスティーがいるのです！

初めて会った時のような緊張感は今では全っく存在しません。勿論です家族なのですから。

家族構図、そう、私達の家庭では冗談なども飛びかい、私自信もまるで自宅に居るかの様に寛いでしまうという、ゆったり、のんびり和やかな本当に素敵な構図が出来上がっています。

「家族が和やかに暮らす、当たり前のことなのかもしれません。しかし私にとってそれは、この上なく嬉しいことであり、何よりも大切にしたいことです。

フェアウェルパーティーの時も、まあいいテーブルに腰掛けて、美味しい食事を口いっぱいにはおぼりながら、楽しい会話を沢山しました。何とかして涙しそうな自分を誤魔化そうとして、あと少しで成功！というところで、目から涙がもれ落ちそうになったので、上を向いていると、ママが「ゴミが入ったのヨ、という感じのジュスチャーを、パパとクリスティーに示してくれました。Don't cry! ママは私にやさしく頬擦りし、小声でそう言いました。が、そんな心づかいにもかわらず、涙は頬を通過してしまいました。クリスティーはそれに気付いて、私の荷物を持つと言いますが、大して重くなかったので「自分で持つ、など言って二人で争っていると、パパがそれに気付いて（Come on）と言ってクリスティーにwinkして私を先につれて行きました。と、ホームステイ中もこの様でした。

——フェアウェルパーティー。これは終りを表わすものではなく、始まりを表わすものであると私は考えます。小さなことですが、ここから国際交流が始まるのだと思います。私はこんな素晴らしいチャンスを与えて下さった総べての方々に感謝しています。

ポリネシアン・カルチャーセンターを見学して

大谷高等学校 大東綾子

8月28日にポリネシアン文化センターを見学しました。世界各国から様々な学生が、現地の大学に留学し、このカルチャーセンターで観光客に、文化や生活様式などの説明や案内をするアルバイトをしていると聞きました。私達を案内してくれた人も日本からの留学生とのことでした。昔の酋長の部屋や絵文字、椰子の実を使った遊びなどがありました。酋長の部屋には沢山の出入口がありその一つ一つは誰が使用するかが決っていました。椰子の木登りを実際に見て、身のこなしが軽く、本物の猿を見ている錯覚をしたぐらいです。かなりの高さのある木を軽々と登ってしまうので驚きました。それから踊りを教えてもらい、音楽に合わせて皆で踊りました。

センター内を見学した後、ポリネシアンショーを見ました。私にはこのショーが一番印象に残っています。ポリネシア各地に伝わる踊り、太鼓を打つ手さばき、ダンスや歌、戦いの様子など素晴らしいものばかりでした。中でも最も印象的だったのは、松明を遠く離れた場所から場所へと投げ交わしたり、それをバトンのように回したり、一番驚いたのは火の部分の口にくわえた時です。最初は一本でしたが、二本をまとめてくわえた時は本当に驚いてしまいました。今でもその時の

光景が目には浮かびます。ショーが終り照明がつき、松明を回していた人の体を見ると赤くなっていました。それを見て松明がどれほどの熱さなのか解りました。本当にみごとで素晴らしいショーでした。

ポリネシア文化センターで研修して

大阪市立東高等学校 高岡 恵子

ハワイ研修5日目、私達は、ポリネシア文化センターへ行きました。園内はとても広く南国を思わせる雰囲気が溢れていました。園内はいくつかの区域に分かれており、それぞれの島や民族の特色を生かした村や家を作ってありました。その中を歩いているとなんだか作りものじゃなく本当にあった村の跡をそのまま残したような気がしました。園内で特に印象に残ったのは、フラダンスとココナツジュース採りの実演です。

フラダンスは案内係のお兄さんに実演してもらい、その後教えてもらいました。テレビなどで見るフラダンスの踊りの動作の一つ一つに意味があることを初めて知りました。私達も踊ってみました。踊りは以外とむずかしくあまりおぼえられませんでした。最後にギターと歌に合わせて踊ったのは面白かったです。

ココナツの木に登り、実を採って、そこからジュースをしぼる実演はとても良かったです。観客はみんな、説明のセリフに大笑いしていたのに、私は言葉がわからないので何がおかしいかわからず残念な場面も何度かありました。でも、身ぶりだけで十分引きつけるだけの迫力がありました。ココナツの木はとても高く、手がかりもほとんどないのによく落ちないで登れるものだなあと感心してしまいました。その後のジュース採りの様子もユーモラスで、お腹の底から笑えました。

この文化センターのメインである「これがポリネシア」のショーは期待にたがわず最高でした。出演者たちの踊りや劇場内に響く大きな音楽に、他のことなんてすべて忘れるくらい集中しました。火のついた棒をふりまわしたり火の輪の中をくぐったりするアクロバットまがいのものもあり、ほれぼれとするほど美しい踊りで、退屈しませんでした。長かったようで短かったショーもあっという間にフィナーレとなり、私達の楽しいハワイの滞在も終わりに近づいたのです。

ポリネシア文化センターを訪ねて

大阪市立東高等学校 辻 美登利

ハワイ研修旅行の最終日の午後から私たちはポリネシア文化センターに行きました。文化センターに足を一歩踏み入れたとたん、異国の地にタイムスリップしたみたいでした。サモア、マオイ、フィジー、マーケサス、タヒチ、トンガ、ハワイと7種類の南太平洋の島々の村が再現されているのです。それぞれの村には酋長の家や民家が建てられ、生活用品も置かれており、生活の様子がわかるようになっていきます。そして、それぞれの場所には、それぞれの国の服装をつけた人がいて、生活を再現していました。

私たちは、日本人のガイドさんに説明してもらいながら見て回りました。ハワイの敷地に入っ

たとき、ガイドさんがフラダンスを教えてくださいました。少し恥ずかしかったけれどもけっこうみんな踊っていたようでした。

一周りした後夕食を食べ、六時からポリネシアンショーを見ました。オープニングは南太平洋の島々の踊りの総出演で、とっても見ごたえがあり素敵でした。その後島ごとの踊りをみました。ゆったりとしたテンポで優雅に舞うハワイアン・ダンス、強烈なビートで激しく踊るタヒチアン・ダンスなど、それぞれの島の特徴が踊りによってわかり、改めてそれぞれの文化のすばらしさを認識しました。ショーが進むにつれ、日が落ちてきて場面効果がどんどんもりあがってきて、すばらしいショーになりました。私は中でも特に火の踊りが一番心に残っています。

このショーが終わった後、バスガイドさんから聞いたのですが、このショーの出演者も、園内のガイドさんもほとんどすぐ近くのプリガム・ヤンケ大学の学生なのだそうです。それぞれの固有の文化を後々に伝えていこうとしてこのようなショーをしているそうですが、それはとてもすばらしいことだと思うし、私達も負けないように日本の文化をいつまでも伝えていかなければならないなあと思いました。

二時間ほどのショーでしたが、私はとてもたくさんのことを学ぶことができました。またハワイに行くことがあったら、今度はゆっくりと行きたいと思います。

帰りの飛行機

清風学園高等学校 吉 兼 周 吾

帰りの国際線の飛行機の中で一番感じたのは、みんなとても楽しかったのだろうという事だ。なぜなら、機内のどこの場所でも、笑いをたやさず新しい友達とトランプや会話でとても楽しんでいたからだ。また疲れているのかひたすら寝ている人もいたが、きっとこの人達も、ハワイでは、楽しかったにちがいないと思った。また途中で上映された映画を見ていた人は多いと思うが、僕は、おもしろくて笑いすぎ、後で何か疲れが、ドッときたような気がした。また僕は「JALでよかった。」と思った。けれども僕だけ感じたわけではないと思う。なぜなら、ハワイへ出発する前の説明会の中で配られた小さな本か何かの中には、外人スチュワーデスとの簡単な会話の仕方が載っており、説明をして下さる人も外国の飛行機に乗ると決めた様な調子で、小さな本を中心に説明をしておられた。僕は英語が不得意なので、飛行機の中でのスチュワーデスとの会話が日本語で通じると分った時は本当にホッとしました。しかし、ホッとしたのは、僕だけではないと思う。国内線の飛行機の中では、さすがに疲れたせいか寝ているか、本を読んでいるかで、会話を交わしている人はあまりなくたいした事はなかった。おもしろかったのは飛行機の上下のゆれだ。とにかくゆれが大きくて僕は目がすっかり覚めてしまった。

飛行機の中だけでなく、いろいろとおもしろかったし勉強になったと僕は思う。

八月二十九日

大阪桐蔭高等学校 山 本 元

青い空と海の似合う美しい街並みの市内見学、疲れたけど頂上から見た景色は最高だったダイヤモンドヘッド、平和のありがたさを知ったパールハーバー研修、楽しかったショッピング、うき

うきしながらの町中を歩いた現地の高校生との交流会、緊張しながら聞いたホスピタリティセンターでのホームステイオリエンテーション、この研修の最大の目玉2泊3日のホームステイ、涙、涙のフェアウェルパーティー、文化の違いを知ったポリネシアカルチャーセンターなど、盛りだくさんの研修が終わった。最後のホテルであるシェラトンワイキキホテルに着き部屋に入って、短かったけれど充実していたハワイの研修を友達と眠い目をこすりながら振り返った。明日にはもう帰ることを考えると寂しくて仕方がなかった。

そして、二十九日、予定通りに飛行機が飛び、窓から小さくなっていくオアフ島を見て、昨夜に続いて何か寂しくなってしまった。飛行機も水平飛行に入り、落ち着いた所で、食事が出てきたが疲れていたのと、寂しさが込み上げてきて、あまり食べられなかった。また、スチュワードの方にトランプを借して頂き、友達と狭い機内で遊んだり、映画を見たり、あれこれと8時間の飛行中、研修の名残りを感じていました。成田に着きバスで羽田に向かっている途中に見えたディズニールンドや東京タワーを見て、ハワイの景色と対比させていました。何を見てもハワイの楽しさを感じずにはいられませんでした。

羽田に着いて、次の飛行機に乗るまでの約一時間半の間、みんな疲れていたようでした。単に、疲れだけでなく、研修が終わってしまったと言う無念さがあったのでよけいにそう見えたのだと思います。大阪に着いて、両親の顔を見て、やっとその無念さも忘れしました。全員無事で本当によかったと思います。楽しかったハワイ研修を忘れることなく今後に生かしていきたいと考えています。

ハワイ研修

四天王寺高等学校 佐伯陽子

今日から待ちに待ったハワイ研修です。ハワイへは5時ごろ到着。緊張の第一歩!! 辺りはうす暗く、税関も人まばら。でも私の中では、これからの期待でいっぱいでした。“これから、どんなことが私を待っているんだろう!!”

一日目は市内で研修。陽もだんだん昇り、きれいな空、美しい緑、きれいで高いビル。2度目のハワイだったけどやっぱり感動。“ああ、ハワイ!!”

二日目は、ホームステイの始まりです。私のホストファミリーは3人家族。4歳のスメータという女の子がすごくうれしそうに迎えてくれました。それから3日間、海や買い物へといろいろ行きたいへん楽しかったです。でも、一つ驚いたことがあります。それは、同じ家にフランスの17歳の女の子も、同じくステイしていたことです。その女の子は、フランス語はもちろん、英語ペラペラで、圧倒されてしまいました。でも、3ヶ国の人間が集えたことは、すごくいいことだと思いました。もし、またこのような機会があれば、今度は、もっといろんなことを話しあえたら……、と思います。

五日目からはまたまた研修。滞在期間が一日伸びたので、ゆったりとすごせて、よかったと思います。買い物や、初めてフラダンスもみました。

これで私の短いハワイ研修も終わり。でも学んだことはいっぱい。思い出もいっぱい。ホームステイでは、お別れの時スメータが泣いてくれたこと、お母さんが“また来年きてネ!”と言ってくれたこと、心にいっぱい残っています。そしてまた、ハワイへ行きたいです。そしてその時、また少し変わったはずの私が、次にどんなハワイを感じるができるか知りたいと思います。

海外研修に参加して

三郷中学校 本間規子

初めての海外研修という事で、出発前日の私の心の中では不安と希望が入りまじり、とても変な気持ちでした。

インターアクト・クラブ員でもない私は、本来ならばこのようなすばらしい体験をする事は、まず百パーセントなかった事でしょう。しかし私は、みなさんと一緒に海外研修に行く事が出来ました。とてもすばらしい事であると、私自身喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。そして何よりもうれしく思い、感じた事は、四天王寺の学生のみなさんを始め、インターアクト・クラブのみなさんがとても良くしてくださった事です。

海外研修で思い出深かった事と言えばたくさんありますが、一つひとつ話してみるのは無理として……。なかでも、ホームステイ先の子供さん、“リチャード君”と言うのですが、そのリチャード君と遊んだ事が、幼稚園の保育さんになる事を夢とする私にとっては、大変重要な勉強となると共に一つの思い出深い出来事となりました。

リチャード君はとてもやんちゃで、やさしい男の子でした。多くの言葉をかわして遊ぶ事は出来ませんでした。一緒に遊んでいると、手に取る様にリチャード君の気持ちがわかり、とても感動し、その感動と同時に一つの大切な物事を学び取った様に思いました。その学び取った物事というのは、どの様な事かというと、

“言葉などに大きな違いがあっても、自然に相手の気持ちが伝わってくるものなのだ。変に言葉なんて必要ない、気持ちの中から、心の奥深くから何らかの1つの形として会話をするとする事も出来るのだ”と言う事などです。

ホームステイをする事によって学び取る事が出来たこの物事は、私を一つ成長させてくれる力がある様に思いますし、心の中に深く、これから先私が生きてゆくかぎり、心に残る大きな1ページになるのではないかと思います。

他にも色々思い出深い出来事がたくさんありますが、私としてはこの一点をあげて文を終えさせていただきます。みなさん、大変色々とお世話になりました。

ハワイ研修について

明浄学院高等学校 蘇朱莉

当日になって、朝早く起床していろいろと準備をした。昼食は友だちと空港で食べる予定をしていたので、家を早く出て、地下鉄まで友だちを迎えにいった。空港で手続きしてから、日本をたつ前に、ロータリーの人たちと送別会を開いて、出発前の諸注意とかも受けた。八時間も飛行機に乗ると聞いて、ゆっくり遊べると思ったが、意外と疲れが出てきて、ほとんどの時間は寝ていた。それにクーラーがききすぎて、初日からカゼを引いてしまった。ハワイの空港に着いて、服を着がえてから、バスで市内研修をした。市内を見るとアメリカ風であって、高速道路の広さに驚いた。この日パンチ・ボールでの、研修が一番印象に残った。そこには戦争で亡くなった人たちのお墓があり、地下に埋めてあったので、遠くから見たら、なかなかわからないのである。それにこの人たちを見守っているように全身真白で、とても純粹に思われる女神の肖像が大きく立ててあ

り、やさしいが厳格な表情であった。午後の研修は昼食が済んでから、ダイヤモンドヘッドに登った。大変暑くて、トンネルを通るときは、中が暗くて、後にいる友だちの顔さえ見えなくて、なんとか前の人の足音を聞きながら、前へ進んでいった。頂上に達すると、市内全部が見えてきて、きれいな青い海が目に入って、こんな美しい海を見るのは生まれて初めてであったので、すべてが島そのままのように見えた。二日目になると、交流があつて、質問ののっているプリントを持って、向こうの人たちに案内してもらった。その後、予定であつたおり紙が時間の都合で取り消しになり、そこでホストの人たちを待つことになった。迎えにきたのは中国系の人たちで、みんな英語をしゃべっていたので、こちらも助かった。その翌日の朝、その近くのビーチへ連れてってもらって泳いだ。そこはさんごがいっぱいあつて、魚も浅い所で泳いでたから、水中メガネをかけて、魚と一緒に遊んだ。ホテルに戻る前に、ポリネシアセンターへ研修に行つて、いろんな変わった風習を紹介してもらったし、夜のショーも見ることができた。それから帰る前は、あちこちでショッピングをした。今度の研修は本当に楽しくて、いい思い出になつて、よかつたと思つた。これからはインターアクト部員として、また海外研修へ行くことはできないと思うが、これからもたくさんインターアクトをしていきたいと思う。

ハワイ研修に参加して

明浄学院高等学校 山中真紀

インターアクトに入部して3ヶ月でこんなにすばらしい体験をさせていただいてとてもうれしく思っています。研修前のしっかりしたオリエンテーションのおかげで不安はほとんどありませんでした。

たくさん学校からも参加するということがそんな楽しみもあり胸をふくらませてました。

ハワイでの一番の思い出はなんといってもホームステイです。ハワイに私のもう一つの家族ができるなんてすごく素敵です。私のホストファミリーは、日系の人だったこともあり、日本についてのことをよく知られていたのですごく楽しかったです。

ホストチャイルドの13歳の女の子が日本に今年の6月に来たということを知りてびっくりしました。京都・奈良・東京を訪れたそうで大阪には来てないというのが少し残念でした。学校から来たそうです。

彼女は日本語も勉強しているようで、よく私に日本語で話しかけてくれて私が英語で答えるという奇妙な形で会話しました。私も彼女もたいへんいい勉強になりました。

ホームステイ中に私が

「日本での生活はどうだった？」と聞くと

「とっても美しくよかつたけれど日本は6月に行つたのでちょうど梅雨の時期で残念だった。」

と言っていました。桜の美しい時期に来てほしかったです。

もう一つ

「もう一度日本に行つてこんどは生活してみたい？」と聞いたら

「観光としてなら日本は最高だと思うけど長い期間生活はしたくないわ。」

と言われたのを聞いて、なるほどなあと思いました。

私だって日本は住む所じゃないと思います。ハワイに行ってそのことがよく分かりました。

もう一つ思い出に残っているのが、パールハーバーです。アリゾナを見てすごく何かショックを受けました。50年近くあの状態にしているアリゾナは私たちに何かを訴えているようで悲しかったです。

パールハーバーは本当に観光だけで済ませてはいけない所だと思いました。そしてたくさんの方がパールハーバーを訪れているのを見てすごくびっくりしたのと同時に日本とは違うなあとも感じたのを覚えています。

博物館の中のパネルや映画はどれも衝撃的でした。

ハワイ研修でパールハーバーに、これからの日本をつくる私たちが訪れたということは、すごく意義のあることだったと思います。

どれもこれも初めてでとまどいもたくさんあったハワイ研修でしたが、すごく素晴らしいものになってよかったです。何よりみんなが無事に大阪に帰ってこれたというのが成功の証拠ではないでしょうか？

このハワイ研修をステップに奉仕活動の方にも発揮してゆきたいです。

海外研修をふり返って

金光八尾高等学校 土井京子

今回の海外研修で一番楽しく、一番日本と違う空気に触れることができたのは、やはりホームステイでの経験でした。生活様式が何から何まで違って戸惑うことばかりでしたが、それがまた新鮮でもありました。

何よりも楽しかったのは、ホストファミリーと乏しい英語力で必死に会話することでした。時には自分の言いたい事が伝わらなくて、はがゆくなった時もありました。しかし、その一方でめちゃくちゃ私の英語が伝わった時の喜びは言葉にできないものでした。とにかく言葉というのは不思議なものです。文法なんていちいち気にして使っていなかったし、多少めちゃくちゃでも伝わるのです。その点私達の日頃の英語の授業は本当に受験英語を勉強してるんだなと思いました。

他に不思議に感じたことは、何でもすることが大きいというか、オープンな感じがしたことでした。いきなりにと笑って握手をしたらお互いがもう友達みたいな気分になってしまいます。たった2日や3日で友達の数はすごいものとなりました。みんな日本に興味を示してくれていて、いろんな事も知っているようだったし、現に日本語を学んでいるという人もいて、日本語に触れる場もありました。

買い物につれて行ってもらった時などは「ここは少し値段が高いからあの店の方がいい。」とか、いろいろ助けてもらいました。私達は日本とアメリカの物価の違いが実感としてわからないので、もっと安く買える物でも高く買っていたかも知れないなあと思いました。

ホストファミリーの人達は本当によくして下さいました。まだまだ一緒にいたかったのに帰らなければならない時、思わず涙が出て困りました。また会う事を約束して別れました。外国の生活を身近に感じられるようになった、本当に良い経験でした。

思い出の海外研修

大阪桐蔭高等学校 蘇 武 茂

ハワイ海外研修でのメインになる、ホームステイは、たぶんむちゃくちゃになるだろうと思ってました。しかしそうでもありませんでした。なぜなら、ホームステイに行くまでは、英語が絶対に通じないと思っていたからです。たしかに、会話はという会話は、あまりできなかったけど、ぼくたちの英語が通じたことに自信を持ちました。話をしている内に、だんだん慣れて、英語が身につきかけたかな、という時に、もう終り。大変くやしいと思ったけど、いろいろなコミュニケーションがとれてよかったと思っています。

ぼくが行ったホームステイの家族は、とても親切で、本当によく面倒を見て下さったと思います。ホームステイに行ったその日から、家のプールで泳がしてくれたし、次の日、ワイキキビーチに連れていってもらい、買物もしました。そして、ビデオを、貸りて見せてくれたりもしました。ビデオは、さすがに英語を理解するのに、苦労したけど、おもしろかったです。最後の日も、海岸、そして、山登りまでさせてもらって、少しハードな毎日だったような気がするけど、最高のホームステイでした。

もうこんな機会はないと思うけれど、またいつか、きっと体験してみたいと、心から思いました。いろんな面で、このハワイの海外研修は、一生の思い出になるでしょう。

今後に期待する

浪速高等学校 IAC 顧問 本 間 靖 彦

「百聞は一見に如かず」インターアクトクラブ員として、各自が学び培ってきた精神を実践する機会を得る事ができたアクター達に、まず喜びの言葉を送りたい。

多くのアクター達が初めて体験する海外旅行、パスポートの取得、ハワイの習慣や言葉の勉強、実に忙しかったに違いない。

期待と不安が一杯だったホームステイ、身振り手振りでやっと通じた会話。ホストファミリーの心暖まる歓迎。アメリカナイズされた君達とはいえその一つ一つが物珍しく新鮮に見えた事だろう。親睦とは何か、どんなに大切なものか、実感としてつかんでくれたと思う。君達の一挙手一投足すべてが日米間の大きな交流につながっている。君達はインターアクターとして立派にその目的を果たした。そして大きな体験をした。今後はこれをどう生かしていくかである。きっとこの5泊7日が大きく膨らんですばらしい花を咲かせてくれるに違いない。今後の君の人生はどう進んでいこう。少なくとも君の心の中に違った目標ができたに違いない。人間が一周り大きくなったに違いない。「国際理解」の実践として企画されたこの研修が今後も続いて欲しい。築かなければ意味が無いように思う。そして、アクターの中から立派な国際人が誕生してくれる事を望みたい。その一歩を踏み出したインターアクター諸君に今後の活躍を期待すると共に、その裏でこのような機会を与えて頂いたロータリークラブや、ホテルでじっと君達の帰りを待った顧問の先生そして君達の保護者のバックアップがあってこそ実現したという事も忘れないで欲しい。

最後に今回の研修旅行に際し大変お世話を頂いた重村団長はじめ、大教大平野の西野先生、大西先生、その他関係の方々に御礼を申し上げて、参加一顧問としての感想といたします。

1989～'90年度

国際ロータリー第266地区

インターアクトクラブ年次大会

恒久の平和をめざして

AIM AT THE PERMANENT PEACE

報 告

日時 1989年11月19日(日) A.M. 9:30開会

会場 大阪国際交流センター

大阪教育大学教育学部

ホストクラブ

附属高等学校平野校舎

インターアクトクラブ

スポンサークラブ

大阪南西ロータリークラブ

年次大会

於：国際交流センター

受付登録風景



1989-1990年度
国際ロータリー第266地区
インターアクトクラブ年次大会
恒久の平和をめざして

2F さくら東 9時30分より

1989-90年度 国際ロータリー第266地区
インターアクトクラブ年次大会
恒久の平和をめざして
AIM AT THE PERMANENT PEACE

INTERACT CLUB



OSAKA KYOKU DAIGAKU
FUZOKU HIRANO
SR HIGH SCHOOL
JAPAN



INTERACT CLUB



DISTRICT 266
JAPAN

多数のロータリアンの参加によって盛大な式典となりました



重村委員長のあいさつ



新堂庄二市議員祝辞



“インドへ井戸を”の
募金もやりました



IAC部員より各提唱ロータリー
IAC委員長へ感謝状贈呈



各クラブからの活動報告



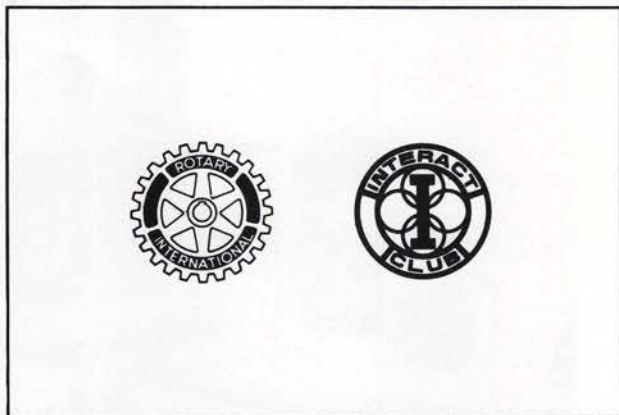
分科会 パネラーも真剣そのもの



活発な意見交換



来年のホスト校
浪速高校へバトンタッチ!





INTERACT

INTERNATIONAL ACTION CLUB

インターアクトの背景

インターアクトは、ロータリークラブによって提唱されている世界的な団体であって、若い人々に、奉仕と国際理解のための世界的連携において、協同活動を行う機会を与えることを目的とするものであります。学校を基盤とするクラブの会員資格は、高校在学中の生徒または年齢14歳から18歳までの者、地域社会を基盤とするクラブの会員資格は、14歳から18歳までの青少年です。地元の実情から考えて、女子のみのインターアクトクラブ、或は男女混成会員のクラブとしたほうがよいと思われる場合は、提唱ロータリークラブの裁量によって決定することができます。

インターアクト八つの目標

インターアクトの目的は、奉仕と国際間の理解に貢献するため世界的親交を以て共に活動する機会を青年男女に与えることにある。

インターアクトの目標は次の通りである。

1. 建設的な指導力を養成し、自己の完成を計ること。
2. 他人に対する思い遣りと、他人の力になる心構えとを奨励し、これを実践すること。
3. 家庭と家族の重要性に対する認識を涵養すること。
4. 個人の価値を認める考え方に立脚して、他人の権利を尊重する観念を養うこと。
5. 個人的成功のためにも、地域社会の改善のためにも、更には団体としての業績を挙げるためにも、各人が責任を負うことがその基本であることを強調すること。
6. すべての有用な職業は社会に奉仕する道であるとして、その品位と価値を認識すること。
7. 地域社会、国家及び世界の問題についての知識と理解を深める道を提供すること。
8. 国際理解と全人類に対する善意を増進するために、個人として、また団体として、進むべき道を切り開くこと。

1989～'90年度 R. I. 第266地区

インターアクトクラブ年次大会 プログラム

恒久の平和をめざして AIM AT THE PERMANENT PEACE

9 : 0 0 受付 (登録開始)

9 : 3 0 <開会式>

	総合司会 大教大附平野 I A C	横山 佳世
点鐘・開会宣言	R I 266地区 I A C地区代表	梅田 一弘
君が代斉唱・I A Cの歌	ソングリーダー	濱口 佳代
ターゲットの発表と説明	大教大附平野 I A C	中村 洋子
開会の言葉	R I 266地区インターアクト委員長	重村 泰弘 (大阪南西 R C)
歓迎の言葉	大教大附平野校舎 校舎主任	花篤 実
	大教大附平野 I A C幹事	大西 由紀子
ガバナー挨拶	R I 266地区ガバナー	武尾 敬之助 (大阪西北 R C)
来賓並びに参加ロータリアンの紹介	R I 266地区インターアクト委員長	重村 泰弘
参加クラブ並びに顧問紹介	R I 266地区 I A C顧問代表	西野 博子
来賓祝辞	大阪市議員	新堂 庄二
祝電披露	大教大附平野 I A C顧問	西野 博子
各クラブ活動報告	各 I A C代表	9校
感謝状贈呈	地区インターアクト委員長へ	I A C代表より
	各提唱ロータリー I A C委員長へ	各校 I A C代表より
	大阪 R C	I A C委員長殿 ← 大阪市立東高等学校 I A C代表
	大阪阪南 R C	I A C委員長殿 ← 四天王寺学園 I A C代表
	大阪南 R C	I A C委員長殿 ← 清風学園 I A C代表
	大阪住吉 R C	I A C委員長殿 ← 浪速高等学校 I A C代表
	八尾 R C	I A C委員長殿 ← 金光八尾 I A C代表
	大東 R C	I A C委員長殿 ← 大阪桐蔭高等学校 I A C代表
	大阪阿倍野 R C	I A C委員長殿 ← 大谷中・高等学校 I A C代表
	大阪城南 R C	I A C委員長殿 ← 明浄学院高等学校 I A C代表
	大阪南西 R C	I A C委員長殿 ← 大教大附属平野校舎 I A C代表

スピーチ
(インターアクターの主張) 大教大附平野 I A C 伊部 雅子

行事案内
一分科会について— 大教大附平野 I A C 中村 洋子

1 2 : 0 0 <昼食> 海外研修記録ビデオ上映

1 3 : 0 0 グループ別分科会 [パネルディスカッション]

“平和な社会をめざしてインターアクターの活動を考える”

A班 身体障害者問題について

B班 国際化問題について

C班 老人問題について

D班 老人問題について

<閉会式>

集約会 各グループ司会者より報告

講評 R I 266地区インターアクト委員長 重村 泰弘

次年度ホストクラブへの引き継ぎ 大教大附属高校平野校舎 I A C →浪速高校 I A C

閉会の言葉 大教大附平野 I A C 副会長 田中 秀宜

閉会点鐘 R I 266地区 I A C 地区代表 梅田 一弘

1 7 : 0 0 <解散>

インターアクトの歌

東京西 R C 会員
藤山一郎 作詞・作曲

元気よく

ここに つどいし われら は ほこりもたかし
イン ター ア ク ト ら い き し か い に ほ う し の り そ う
し め せ い ま こ - そ そ の ま こ と - は は
え り を も て さ し の べ よ て を - せ
か い を む す ぼ う イン ター ア ク ト わ れ ら

ターゲットの発表と説明

中村 洋子

今年のR I第266地区インターアクト年次大会のターゲットは、“恒久の平和をめざして・AIM AT THE PERMANENT PEACE”と決定いたしました。そもそも、ホスト校が、大阪桐蔭高校から、大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎に移ったときに、私たちは今年は平和について考える1年にしようと、いろいろな活動をすすめてきました。その中でも特に、ハワイへの海外研修に参加する前には、第二次世界大戦に関する本を読み、平和について勉強しました。さらには、パンチボールやダイヤモンドヘッドの要さい、そしてパールハーバーと平和を求める拠点ともなっているところへ行きました。本やパンフレットの写真とはうってかわって、そこには静かな光景しかありませんでしたが、その静けさの中には、数千・数万、そして数十万の人々の平和を望む声があるように思われました。こうして戦争の悲惨さを目の前にした私たちは、さらに平和というものを強く意識しました。

何でもお金で解決できる世の中になってきているように思われますが、平和は決してお金で買えるものではないのです。そして世界中の誰もが、このまま平和な社会が続くことを本当に心の底から強く願っているのです。“戦争がない”それも平和の一つでしょう。でもそれだけではありません。みんなが幸せに暮らしていけるということも平和の絶対条件となるのです。一見平和に見える世の中も、まだまだあちこちに問題をかかえています。この問題を解決していかなければ、真の平和はやってこないでしょう。

恒久の平和を望んでいるだけでは、何も解決しないし、何も始まりません。では私たちのような若者が、平和をめざして何ができるのか、何をすべきなのか、この問題を今まで一年間、ずっと考えてきましたし、またこれからもずっと考えていくべきものでしょう。みなさんも年次大会というこの時をきっかけに平和をめざし、考えていただければと念じております。

分科会

午後からの分科会について、御案内申し上げます。今回の分科会は、老人問題、障害者問題、国際化と3つの大きなテーマをとりあげました。この3つは一見、全く違った問題のようにも思えますが、今回のターゲットの“恒久の平和をめざして”を推進するためには、どうすればよいのか？という点にかんがみ、インターアクターとしてまた、社会を支えていく若者として考えてみたいと思います。まずこれからの社会問題を考えていく上で、現状を知ってもらいたい、また、今日日本がかかえている問題を知ってもらいたいという、方向性をもちました。そこで真に平和な社会をめざすという点でこれらの問題の間には、共通の意義があります。

ですから、今日はみなさんに、自分たちの意見を持っていただき、それをみんなで考えていく、そのような会にしていきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

開会のことば

R I 第266地区インターアクト委員長 重村 泰弘

みなさん、こんにちは。今紹介されましたR I 266地区の委員長をさしていただいております、重村と申します。

今、日本に求められているものの一つとして、「国際性豊かな」と言うようなことがございます。幸いにして私は、このインターアクトクラブに入っていらっしゃって、国際性を身につけようという諸君の中から、やがて大阪を、あるいは日本を動かすような大人物が沢山出ることを期待しております。

午前中の、このセレモニーにつづきまして、午後から分科会と言うものがあります。プログラムにありますけれども、いろんなテーマで分科会・ディスカッションが行われます。彼らが子供、あるいはお孫さんに当たるような、ロータリアンの方もいらっしゃるかと思いますけれど、若者、若い人達の心情、考えていることを理解する為に、その熱心なディスカッションに、最後までのお付き合いをお願い申し上げまして、開会のあいさつとします。ありがとうございました。

歓迎の言葉

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 校舎主任 花 篤 実

ホストクラブを代表いたしまして、ひとこと歓迎のごあいさつを申し上げたいと思います。私はみなさんの学校の校長先生とちがいがまして、大学の教授の兼任でございますので、式の時ぐらいしか、学校に出ませんから、あまり学校のことはわからないのです。私の学校では養護学校から高等学校まで、たくさんの生徒がいっしょに勉強しております。その養護学校の卒業式に私が出ました時、本校のインターアクトの生徒諸君にその卒業式を非常に盛りあげていただきました。その後養護学校の先生がたから、このクラブの生徒諸君がいろいろな行事で養護学校の子供たちを世話をしているという話を聞きまして、大変感激しました。ともすると、我々の学校は進学校と思われておりますけれども、そうした中で、こうした社会生活を通しまして、このクラブが福祉といえますか、このような行動を通して積極的な教育活動をしているということ、大変ほこりに思うようになりました。私は専門が教育でございます。今、学習指導要領を見ましても、日本の教育が大きなまがり角に來まして、指導の考えかたを大きく変えなければという流れを感じるかもしれません。けれども、いろいろ自分とちがった人、いろいろな人と交流を深め、そして仲良くやっていく。そうしたことが、やはり国際化をふくめて一番基本になる理念だというふうに思っております。今まで日本の教育が非常に高い質、レベルを保っていたわけでございますけれども、ともするとそれは自分たちだけがそうした質をもっていたと認めていました。そうした中でめいめいの人特に、いろんな意味で社会的なハンディキャップをもった人たちといっしょになって、これから、すばらしい平和の世界をつくっていかねばならないのだと、そうした願いを、このインターアクトのクラブが非常に積極的に、すすめられておられるということで、大変私も感動するしだいでございます。どうかみなさん、これからも、国際理解と、社会的弱者の援助を含めて、はば広い積極的な活動を展開していただくことをお願いいたしまして、ごあいさつに変えさせていただきます。

歓迎の言葉

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎 大西 由紀子

本日はR I 266地区インターアクトクラブ年次大会に御参加下さいまして有難うございました。この場をかりましてロータリーの先生方の常日頃からの御指導・御援助頂きましたことをお礼申し上げます。また本日の年次大会において私たちの活動をご理解頂きさらに一層の御指導を下さいますれば幸いに存じます。

また午後からの分科会では、高校生の社会福祉活動を中心テーマとして、主に国際理解、老人問題、障害者問題にスポットをあてて話し合いをしたいと思ひます。

今日一日私たちの若い力を結集させて、年次大会を成功させましょう。

ガバナーあいさつ

R I 第266地区ガバナー 武尾 敬之助

皆さん、お早うございます。今日の、この第266地区のインターアクト年次大会に本当に心からお祝いを申し上げます。おめでとうでございます。一言、この大会にあたりまして、ガバナーとしてごあいさつを申し上げたいと思ひます。

そもそもインターアクトは、この今日の式次第にも書いてありますように、その目標とするところは、建設的な指導力を養成する、他人に対する思いやりと、他人の力になる心構えとを奨励し、これを実践するように述べられています。家庭と家族の重要性に対する認識を涵養する、地域社会と国家及び世界の問題についての知識と理解を深める道を提供する、こんなことがインターアクトの目標でございます。それではこの266地区のインターアクトの皆さんはどんな風なことをやってこられたのか。顧問の先生方からお聞きしたお話をまとめてみますと、定期的な老人ホームや障害者施設の訪問をおこなったり、学校周辺の道路や公園の清掃を実施するなど、世界自然生物保護の為の募金活動にさっきみたいに頑張っていたり、アジアに井戸を、のキャンペーンのもとに学校をあげての募金活動に頑張っている。学校内の美化の為に、また花壇づくりで、生物保護にはげんでいるというようなことなどの諸実績につくられております。さて、そのインターアクトでございますけれども、高校3年間を主体として、14歳から18歳の少年少女の皆さんが、ほんの短い期間に体で、そして心で覚えられた社会に対する奉仕の心を、それから、国際理解、こういうことを皆さんがこれから青年になり、大人になって、その時にこれらがいかに役に立つかということがおわかりになるかと思ひます。これがインターアクトの存在価値であります。世界では、今この3月31日現在で87ヵ国、クラブ数は5797、会員数は、12万7258名という多くの人達がインターアクターとして励んでおられます。我々だけがやってるのではないのです。世界中の国々で、こういうふうに、インターアクトの奉仕活動にご協力されているのです。当地区でも青少年奉仕活動というのはこのロータリー活動の中で最重点項目においているというのもその証拠であります。つきましては、このインターアクトの活動に対して、学校の顧問になっていただいている先生方、この方々のご努力というものは、本当にロータリーを愛してくださり、理解してくださって、そして皆さんの指導にあたってくださっている。本当にガバナーとして深く心から感謝の意を表する次第でございます。どうもありがとうございました。国際理解というために

皆さんには海外研修の機会があります。今年は8月にハワイへお出でになりました。私はあるクラブのクラブ公式訪問にあいまして、そこに出席しておられたインターアクトのお嬢さん、顧問の先生のショートスピーチをお聞きしまして、たいへん感激いたしました。また、生徒のお嬢さんも「本当に来てよかった、ためになった」と、さきほどここで、ご報告がありました様な感想を話され、私は胸にじんと来るものがありました。修学旅行と、インターアクトの研修旅行とは多少違うこともありますが、学校側におきまして、皆さんを海外へ送るといのは大変な仕事です。安全——事故がないように——この為に1年も2年も前から準備をしなければならないのです。だから、これからはハワイだけでなく、もっと広い目で他のところに行っていただきたいわけでございます。けれども、そういう場合でもその準備の段階で、皆さんからも顧問の先生からも、それからロータリアンのインターアクト委員の方々などにも、意見を出していただきたい。そしてよりよい研修ができるようにすすめてほしい、そう思う次第でございます。このように国際理解と社会奉仕が使命でありますけれども、さきほど先生のある方からおうかがいしましたが、その奉仕活動も生徒さんにとっては、ここはどうかと行ってみると、継続的に来てくださいますように、必ずその条件が難しくなってくるのがたくさんあります。しかし、そこはうまく、例えば、公共の手の届かないところ、さきほどもちょっとお話を聞いておりましたけれども、例えば郵便ポスト投入口の高さがあれでいいんだろうか、車イスで投入しようとしたら手が届かないんじゃないか、という疑問を抱いて帰ってきたインターアクトの生徒さんがいました。そんな1つの発見が改善につながれば、有意義です。これからも、ロータリアンと顧問の先生とインターアクターが一体となって、インターアクトの目的の達成のために、1つ、みんなで頑張ろうではありませんか。私の話をおわります。どうもありがとうございました。

来賓祝辞

大阪市議員 新堂庄二

私は現在大阪市の文教経済委員をやっております市議員の新堂庄二です。経済や学校関係の事をやります。私は、元大阪教育大学の附属の先生を10年余りやっておりました。それから、アメリカで1961～2年の間大学で勉強させていただきました。そういうことから、今日おまねきいただいたのだと思ってごあいさつ申し上げます。

まずインターアクトクラブの年次大会が盛大に開かれたことを心からお喜び申し上げます。諸君は、いいクラブに入ったと思って感謝して下さい。私も学生時代こういうクラブがあれば入って、いろいろと勉強させていただけたのですけれども私の時はなかったのです。あなたがたは、インターアクトクラブに入って、活動できる誇りを持っていただきたいものです。

そこでこれからの日本で必要な人材というのは、どんな人材なのかということをおまねき申し上げます。というのはさきほどからいろいろな方がおっしゃっていますが、国際理解とかいろいろいっておりますけれどもいわゆる国際性のある人間、国際性を備えた人とはいったいどんな人かといいますと「立派な日本人に成長する」ことが本当にこれからの国際社会に生きる人間かと思えます。

それでいつも私が申し上げるのですが、現在国連に加盟している国は、今年の1月現在159ヶ国あります。非加盟国は12ほどあります。これらの国々がそれぞれ、お金を出しあって国際連合

を運営しているわけです。その中で一番お金を出しているのがアメリカです。10年ほど前までは何番かであった日本が、現在ではアメリカに次いでたくさんのお金を出しているわけです。ところが、お金をたくさん出しているけれども、いろいろところで国際の摩擦、あるいはいろいろな誤解を生んでいるわけです。そこで私はさきほど申しました、立派な日本人というのはどんな要素があるかちょっと説明したい。というのはまず第一に、みなさま方の方は割に強そうだけれども、体の強い人間に成長しないとだめである。体の強い人間というのは、ただ単に強いだけではだめです。体の弱い人、不自由な人とも本当に手をたずさえて、この社会を支えることができる体の強い人間であります。以前私はある機会に、岩村のぼる博士の話をお聞きしたことがございます。

この方はみなさんご存じだと思いますけれども国際ロータリー平和賞…アジアでもらった人は2人いるんです。1人は、マザーテレサ。みなさんご存じのノーベル平和賞をもらった人です。もう一人は日本の岩村のぼる博士でございます。この方は、ネパールのかた田舎で本当に体の弱い人のために、身をささげて、ご夫妻でネパールでずっと生活してこられました。私はその当時S47. 11. 3でございましたが、先生に来ていただきまして、私がつれていった若者たちに約2時間お話をいただきました。その時に特に私に要望されたことを申しますと、体の強い日本人ということです。このごろ多くの国へ日本の若者たちが行ったりします。例えばアジアの各国へ井戸を掘りに行ったりするわけです。ところがあの暑さというきびしさにたえられないのです。みなさまがたのこの部屋もそうですが、エアコンのある所において、年中いい温度に保たれているので、体がいい温度じゃないと動かないでしょう。暑い所とか寒い所例えばインドの人といっしょに石を動かそうとするけれども体が動かないのです。心は持っています。そうすると現地の人は、何と思うか。「なあんだ、日本人っていうのは口ばかりだ」と思われます。「いっしょに働きましょう」と言っておきながら、働かないでじっとしているわけです。というふうな非難を非常に受けているわけです。せっかくその国へいってもその国の人と共に働けない。共に作業ができない、そういう日本人が最近増えています。これは冷房、暖房に慣れすぎて体がいうことをきかなくなっているのです。

それから、折り紙や柔道、これらはもう英語になっています。日本の文化で何か一つでも知っていれば、その国の人とその事を通じて親しみやすくなります。例えば私はアメリカで日本の高校生の生徒たちをスライドにとったものをマイアミの高等学校の生徒に見せました。信州でスキーをした時の写真だったので、マイアミの人はこれは本物の雪か、人工の雪かとたずねました。ところが私がいっしょけんめいスライドで説明している時、私の友達で数学の先生ですが、英語ができないのです。しかしこの方は手の器用な人なのです。子供に新聞紙でかぶとを作ってやっていました。そうすると子供は英語なんて一言もしゃべらなくても、その先生になつていました。それからその方はマイアミで家庭へ入りこまれて、本当に日本人とアメリカ人が親しくなられた事を覚えております。それでそういうことを身につける事はいい事だと思います。スポーツでも音楽でもそうでございます。

それから、他人との違いを素直にみとめなければいけません。日本ではこうやっているからといって「あんた、ちがいまっせ」とこれではだめなのです。それぞれの国にそれぞれの歴史があります。ところがありがたいことに、人間として、共通の基盤というものがあるから私がいしゃべったら、みなさまがたは私語をししないで、私の話を聞いて下さっています。これは1つの人間としての共通基盤なのです。時間を約束します。するときちっとその時間通りに来ます、これもそう

です。お年寄りを大切にする、体の弱い方、不自由な方、女性を大切にする。こういうことを大切にこれから成長していただきたい。

それから、みなさまがこれからまた海外へ行く機会があると思います。いばらないようにするのは、どこの国の人と会っても淡淡としていて下さい。これはむづかしいですが、どこの国の人ともふつうの気持ちでつきあって下さい。

それから、セネガルという国の大統領が今年の春、日本へやってきました。それで、この大統領と昭和天皇が宮中でお会いになっています。ところが国際交流というのはただ会うだけじゃダメなのです。そのあと、その国の文化と交流しなければいけません。というので、去年の8月にセネガルからハラムという楽団を呼んできました。日本では3回しか公演しませんでした。前の市長さんがその音楽を聞く時に、私は最初10分程でかわるからセネガルの大使の相手をしてくれと私にたのんでたのです。しかし、その市長さんはずっと最後まで動きませんでした。というのは、このセネガルの国の民族音楽が、人間として男も女も老いも若いも、みんながこの音楽を聞いて平等に楽しめるからです。このセネガルという国はオリンピックにも出ましたがわずかな人数でも銀メダルをとっています。この国の人、日本へ魚をたくさん持ってきました。その収益が去年の夏200万円弱ありました。それで、去年の年末そのお金全部をセネガルにみんなで持っていきました。セネガルという国は、アフリカで砂漠化されているのです。それで緑化のために200万円全部を持っていきました。植えた樹木の成育が良くて今年もずいぶん育っております。

大使がそこへお見えになりました。それでどうか花博に出して下さいとお願いしました。来年の博覧会にはセネガルも出します。おかげでようやく来年日本が目標とした国及び国際機関からたくさん日本へお見えになります。そんな時に今日集まったこの若者たちがきっと、街角などでいろんな国の人と会うと思います。私が申し上げたことを参考にして、そしてみんなこれから立派な日本人として成長していただきたいと思います。

1989年 活動報告

金光八尾高等学校

では、金光八尾インターアクトクラブの今年度活動報告をさせていただきます。

本校のインターアクトクラブは「人のお役に立つ人間になる」という本校の建学の精神に基づいて活動しています。

本クラブの主な活動は、大きく分けて、挨拶励行運動・夏季奉仕活動・障害者施設の訪問・海外研修・文化祭・冬季奉仕活動の6つです。

挨拶励行運動とは、6月1日より11月4日まで朝8:00から8:25の時間帯をつかい、登校してくる生徒や先生方に大きな声で挨拶するというものです。つい恥じらいを感じてしまう我々がもっと気軽に挨拶が交わせるようにという趣旨のもとで1年生全員の協力を仰ぎ、行われました。

7月22日から31日には、夏季奉仕活動と称し、日頃からお世話になり、またご迷惑をかけている学校周辺の方々に感謝の気持ちをこめて、学校の前を流れる玉串川・最寄りの近鉄高安駅までの通学路・近くの幼稚園の3箇所を中心に清掃活動させていただきました。中でも大変だったのが玉串川の清掃で、足の付け根まであるゴム長靴を履いて川に入り、中のごみや藻などを徹底的に取り除きました。この清掃活動は毎年行っているのですが、地域の方々にとっても好評だったと聞いています。

夏休みの海外研修には本クラブからも8名のインターアクターが参加させていただきました。また“ひばり障害者作業所”という地域の障害者施設のサマーボランティアに、9名が参加させていただきました。8月8日から8月11日という短期間でしたが、今までに経験したことのない貴重な体験をしました。

文化祭では、今年度の活動報告・ハワイ研修の報告などと共に先ほど報告しましたひばり障害者作業所で障害者の方々が自ら作られた財布やブローチと、私たち手作りの小物などを販売しました。その収益金は、15260円と少ない額でしたが、作業所に寄付させていただくことができました。このほかにも4月には校長先生の御紹介で、デンマークの職業訓練校の校長先生をしておられるクリスチャンセンさんとの交流会もありました。各インターアクターの英語の自己紹介の後、デンマークの生活習慣や考え方の違いなどのお話を聞かせていただき、お互いに熱心な意見交換をさせていただくことができました。

冬季奉仕活動は2月中旬に日頃の清掃ではゆきとどかない場所の校内清掃を行う予定です。

まだまだ反省がないわけでもあませんが、今以上に内容の濃い活動をさらに検討していきたいと思っています。

以上で金光八尾インターアクトクラブの発表を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

清風学園高等学校

「目立たない奉仕」を主眼とした我ら清風高等学校IACの本年度活動報告をさせていただきます。

まず我々は、毎週土曜日を活動の日とし、水曜日は緊急集会の日と決めて活動してきました。

そして、月最後の土曜日を定期例会の日としました。

四月から六月までは新入生との交流を図り、清掃を兼ねた大阪城公園野球大会、学校付近の公園、校内等の清掃を始めとする、身近で普段あまり考えない清掃奉仕に努めることで、出来るだけ新入生に「奉仕」というものを身近に感じてもらおう、特別なことでないということを知ってもらおうとしました。

七月に入り、新入生もぼちぼち活動に慣れてきました。この頃から海外研修の準備を始め、これと平行して奉仕についてより多くの人々に知ってもらい、関心を持ってもらうための「絶対チャンス」である文化祭に向けて部員一同がフルに活動しました。一方、新しく明浄学院がIACに参加することが決まり、認証式には本校より顧問全員と英国にある姉妹校の先生が参加して、新アクター・新顧問の方々との交流を行いました。また、教育大平野校舎において行われた、二度に渡る海外研修オリエンテーションにも参加しました。

八月になるといよいよ海外研修があり、国際人としての認識を強め、理屈抜きで文化に触れ、体験し、楽しむことによって、正に国際理解と親善を実践してまいりました。その意味で、この行事は視野を広げるのにおおいに役立ったと思います。

九月に入りますと文化祭があり、海外研修報告として写真展を行いました。十分な効果が上げられず、反響は今一つでした。しかし、海外研修参加の熱意により、多くのご来場の方々にご理解をいただけたものと確信しております。

そして、「奉仕」と言う無形で抽象的なものを我々と共に理解してもらおうとの主旨で、IAC活動のPRの募金活動も行い、その成果として、ポリオプラスの募金活動・バザー・献血の募金額は一万円にもなりました。

さらに、12月7日より8日にかけて「今宮戎神社」において、IAC合宿研修会を行いました。その際IAC・Tシャツを寄贈して下さいました大阪南RCの皆様、本当に有り難うございました。この場を借りてお礼申し上げます。

それから、古切手・コイン等のアイデアに満ちた活用法による資金集めを大阪南RCに提言し、援助を求めました。その後、

- IAC定款・専門用語・役員必携についての学習会
- クラブ運営についての討議。
- 恵比須・大黒と大阪の歴史のお話し。

そして、「奉仕の定義」の討論会によって、サービスに対する認識とその在り方を確認し、IACの存在の重要性とその意義を強く感じました。

以上をもって、清風高等学校 IAC 活動報告とさせていただきます。

明浄学院高等学校

私達明浄学院高等学校IACは、結成してまだ半年余りなので、年間の一大行事であります海外研修にまさるような活動は、まだしておりません。ここで簡単に私達の活動内容を紹介させていただきます。まず、一つはみなさんご存知だとは思いますが、元会長の推せんにより、長居にあります身体障害者スポーツセンターへの見学、それと、何かの役にでも立てばと思ひみんなで雑布を縫い贈呈してきました。そして、もう1つの活動は、校舎内外の清掃をしております。この

季節は、枯葉の舞い散る季節でもあり、毎日、清掃して、枯葉の山にうもれていますが部員一同力を合わせて頑張っております。これからの予定としましては、年末のクリスマスの日を利用して孤児院を訪問し、交流をはかる計画を進めています。以上で、明浄学院高等学校 I A C の報告と致します。ありがとうございました。

浪速高等学校

地区としての行事は、割愛させて頂き、本校の主な活動のみを報告します。

まず、1つ目として僕達は、年間を通じてWWF（世界自然保護募金）の募金を行っています。近年、オゾン層破壊問題等で自然保護とさわがれている中。日本で僕達若い世代はこうした問題に関心がなすすぎるのではないのでしょうか。まず、僕達の世代がもっと運動すべきだと思います。僕達はこうした現状をみなさんに知っていただくためにも、学園祭において、自然保護のためのパネル展示及び、来校者に対して募金をお願いし、今年は63500円を日本委員会に送金しました。毎年266地区の年次大会には、入口において、募金をお願いしていましたが、今回は場所を考え遠慮させて頂きました。

2つ目に来年花博が行われますが、僕達は、縁を生活に取りくもうと、年間2、3ヶ月に1度校内美化のためにも、校庭内の花壇の制作を行い、学園祭では、多大な賞賛を浴び、来校者の目を引きました。又花の苗の多い時には、学校周辺の方に配布するなどしてPRにも努めています。

更に本校は神社神道の精神を教育方針としていますので、毎年、住吉大社の清掃奉仕や天神祭の渡御のお手伝いをしています。

以上簡単ですが、浪速高校の主な活動報告とさせて頂きます。

四天王寺中・高等学校

私達四天王寺インターアクトクラブは、阪南ロータリークラブの提唱のもとに昭和58年4月に設立され、現在部員数は中学1年から高校3年までの42人で、奉仕活動と福祉活動を中心に行っています。

主なものとして、まず1つ目は社会奉仕を目的とした週2回の校外清掃と週一回の四恩学園の訪問を行っています。四恩学園というのは何らかの理由で親と共に暮らすことのできない子供達を養育している施設です。四恩学園では園児たちと遊んだり、衣服のつくろいや針仕事をしています。

2つ目は老人福祉を目的とした老人ホームの慰問を年2回、お盆前とお正月前に行っており、ホーム内の掃除や、お年寄りの人達と話をしたりして交流を深めています。

又、毎年夏休みを利用して顧問の先生宅でロータリアンの方々やOBをお招きし、恒例のユカタ会を開いています。一泊二日の楽しい集いで、夜はパーティや花火などをして、翌日は社会見学にあてています。今年はNHK、去年はロータリアンの会社でチョコレートなどを製造されているフルタ製菓を見学しました。

文化祭では、みんなで力を合わせて模擬店を出しました。その他に全校生徒に呼びかけて、発展途上国の人々のための古着を集めたり、タイの障害児の作品を展示して、絵葉書を買ったり、

夏と冬には障害者が手や足で描いた作品などの購入に協力してもらっています。これらの総額は毎年約20万円にものぼります。

昨年から今年にかけて、阪南ロータリーの方々の援助によって、私達クラブ内より1人を1年、もう1人を夏休みの間、ニュージーランドへ留学させて頂きました。2人共、今後のインターアクト発展のため、がんばってくれるものと期待しています。そしてニュージーランドからの交換留学生を例会やその他の行事に招いて、国際交流に努めていきます。

今、私達は、この間サンフランシスコで起こった大地震でのアメリカ人のボランティア活動を目のあたりに見て、その精神の偉大さを痛感しています。これからも部員一同より一層力を合わせてがんばっていきたいと思っています。

大阪桐蔭高等学校

この一年は、「インターアクトクラブとは何なんだ。」と考えた一年でした。

一つには昨年度、地区の幹事校として、色々な行事の企画運営をしました。

海外研修にしても年次大会にしても、一つの行事をやり抜くというのは、大変なことです。当時は7校のインターアクトクラブしかありませんでしたが、その7校のインターアクトクラブと互いに連絡を取り合い、行事を進行するのは困難なことです。でも、それをやり抜いた時の爽快感と充実感は、抜群でした。

「インターアクトクラブとは」の問いは、常に僕達の頭の中で繰り返され、その問いの答を模索している現状です。

又、今年の海外研修後、顧問の先生達と話をし、もう一度、原点に戻って、「インターアクトクラブとは何だ」ということを考えてみることにしました。

清風学園インターアクトクラブもインターアクトクラブに関する用語や定款について「勉強会」をしているようで、わが大阪桐蔭高校としても、負けずに、勉強会を続けていくことにしました。

ロータリークラブでの先生方の御協力があってこそインターアクトクラブが成り立つわけですがロータリークラブの先生方だけでなく、世間の人達にも認めてもらうためにも僕達がインターアクトクラブの活動をより積極的に行なう必要があると思います。その意味において、一人一人がインターアクターとしての自覚を持って、9校のインターアクトクラブが力を合わせて活動することが大切だと思います。

それでは活動報告に入ります。

この一年間で大阪桐蔭高校インターアクトクラブでいろいろ取り組んできたことの中で、特に印象深いものについてお話します。

まず最初に、昨年の12月23日の大東ロータリークラブの先生方との親睦を兼ねた、クリスマス会は、現在は引退された3年生の先輩方が中心となって、盛大に行われました。当日の会場の飾り付けはとてもカラフルで、食事も、クリスマスケーキもたくさんあり、豪華なもので、ロータリアンの方々ははじめ顧問の先生方とゲームを行い、プレゼント交換も行われ、とても楽しい一時を過ごしました。

次にR I 第266地区インターアクトクラブの新生歓迎会の下見を兼ねて、僕達2年生が初めて中心となって行った本校インターアクトクラブの新入部員歓迎会についてお話します。生駒山

に登るのが去年の新入部員歓迎会から一年ぶりだったので、とてもきつく感じました。そのぶん山頂で作ったカレーライスのおいしかったことを今でも覚えています。帰りは先頭であった僕が道を間違えるハプニングもあり、予定とは違った急な坂道を下ることになりましたが、なんとか無事下山することが出来ました。

そして数日後、本番のR I第266地区インターアクトクラブ新入生歓迎会がやってきました。人数がとても多かったせいか、下見の時よりも登るのに時間がかかりました。それに他校の女の子がいたせいか、男子校の僕達は多少緊張しました。米を洗ったり、まきを割ったりして、準備は大変でしたがカレーも御飯もとてもおいしく出来上がり時間も短縮でき、とても満足のいくものでした。このイベントで他の学校と仲良くなれたので、交流の輪が今までより広まったような気がしました。それに僕達を中心となって取り組んだ初めてのイベントで、無事成功させることができ、大変満足感がありました。

僕は参加出来ませんでした。8月24日から30日までの5泊7日のハワイ研修旅行は、参加した人によると、ホームステイでは、言葉が十分に通じないだろうと思って通訳の人まで、呼んでもらったり、クルーザーに乗って、VIP気分を味わえたり、美人の女性がいたりというとても楽しい思いをした人や、日本人の口に合わない食事が出て困った人、ホストファミリーの子供の相手をするのに四苦八苦した人など、とても良い体験をした人もいたそうです。予定が変わったおかげで、ハワイ滞在が一日増えて、ポリネシア文化センターに行き、太平洋に浮かぶ小さな国々・島々の文化・習慣など、いろいろなことをハワイに居ながらにして、知ることができたそうです。これらのいろいろな話を聞いて、一般に外国に行けば言葉の壁に当たると言いますが、本当のところは、文化や習慣・生活様式の違いの壁にぶつかったと言った方がいいと感じました。みんななんだかんだと言いながらも、他の学校の人達と友達を作り、未知な外国での予想外の体験が出来たようです。友達の苦しかった体験も、参加できなかった僕には、うらやましい気持ちになりました。

恒例の野崎観音の掃除では、行く前は、あまりゴミが落ちていないだろうと思っていただけども、予想以上に小さいゴミがたくさん落ちていました。そのゴミの中には、空き缶や、食事をした後のはしや、弁当箱があちこちに落ちていました。日本の文化財の一つである寺に、なぜ日本人は、無意識にゴミを捨ててしまうのでしょうか。掃除をしてみてもこんなよくないことはやめてほしいと思いました。

話は変わりますが、大東ロータリークラブの先生方に出席をして頂いての例会を、本校インターアクトクラブでは、「大例会」と呼んでいます。いつも多数の先生方に出席して頂いています。その時は、いつも貴重なお話を聞くことができ活動の参考にさせて頂いています。その意味でも「大例会」を今よりも多く聞きたいと考えています。

来月の12月9日には、本校インターアクトクラブだけのクリスマス会を行うことになっています。留学生の方も、参加して頂くことになっています。他校のインターアクトクラブの皆さんも、是非参加して下さい。

今後は、僕達の手で「インターアクトクラブの主役は俺達なんだ。」といえる自主的な活動を行っていきたくて考えております。

これで大阪桐蔭高校の活動報告を終わります。

大阪市立東高等学校

私たち大阪市立東高等学校インターアクトクラブは、会員数23名で、昨年設立20周年を終えた266地区の9校のなかでは最も古いインターアクトクラブです。スポンサークラブは大阪ロータリクラブです。

昨年度からクラブに対する帰属意識を強くするために例会日を週3回に増やし、月、水、金の放課後や昼休みに活動しています。活動内容は、大阪市教育委員会指導主事助手の外国人英語教師と顧問の先生と共に英語弁論大会の練習や国際問題についての英語討論会、また日本と英語圏の国々との文化的な相違を説明したりしています。顧問の先生は、英語の教材を事前に説明してくれてアジアの人々の考え方を英語でよんだり、欧米の文化、日本の文化について基本的なことを学んでいます。

外国人の先生はここ数年、毎年来て下さって、例会日には必ず出席して下さい、緊張しますが楽しいレッスンです。お世話になった外国人の先生方はアメリカ、イギリス、オーストリアなどさまざまな国の出身なので文化や習慣の違いには非常に興味がわきます。

このように単なる英会話に終始することなく、できる限り国際理解につとめるよう日々の活動などを工夫しています。留学生の受け入れや、外部の団体が国際交流会を開いた時などは積極的に参加するようにしています。

英語の弁論大会では、今年度9月～12月までの間に8人が参加し、優勝・入賞した会員もたくさんいます。スピーチの内容は国際問題や文化をとり扱うようできる限り努力しました。また、過去の先輩たちはこの年次大会のスピーチを英語で発表したりしていました。

今後ともこのように国際理解につとめ奉仕の精神をみがいていきたいと思っています。

大谷高等学校

私達は、活動し始めてまだ一年ちょっとなのですが、今、活動している内容は、喜連瓜破の老人ホーム訪問と春休みと夏休みの子供の遊び相手です。

クラブのなかで、「奉仕は、続けることに意味がある。」という意見がまとまっていたので、学生で時間を最大に利用できる土曜日と日を決めて、ホームの行事日の第三土曜日以外、毎週掃除を中心とした活動をしています。二階は、高齢の痴呆症の人なので、全般的に掃除をします。三階は、けっこう自由に動ける人なので、手のとどかない様なベッドの下や床などを拭きます。四階は、寝たきり老人なので全般的にします。掃除にかかる前には必ず、おばさん達に「こんにちは」と、声をかける様にしています。この頃やっと、向こうから声をかけて下さるようになりました。お風呂の日は、お風呂まで連れて行くのと、上がってきた人の体を拭くのを、出来る範囲でお手伝いします。人に服を着せるのが、あんなに大変だとは知りませんでした。

夏休みには、母親が集会の間、子供に遊び道具を開放している長居にある、おもちゃ図書館という所に、子供の遊び相手として行っています。中には障害を持った子供もいます。始めは、なじんできれなくて本当に困りましたが、おもちゃを通して仲よくなり、一緒になって走り回っています。こちらは、相手が子供なので肉体的にとっても疲れますが、またそれが楽しくてしかたありません。

今後の活動としては、老人ホームの掃除中心から、ホームのクリスマス会など、いろいろな行事に、積極的に参加して行って、ホームの人達とのスキンシップをより深くして行きたいと思っています。

今年は、文化祭にも招待することができました。また、学校の近くの独居老人の方々260人中135名を招待しました。大きなバッジを皆で作し、案内しました。

分科会の報告

A班 「障害者問題」

Aでは、交通災害、内部障害等による障害も含め障害者問題を多面的にとらえ、人権問題として考える立場に立ちパネルディスカッションを行いました。

ディスカッションでは、私達インターアクターとして何が出来るかということを考えました。路上に自転車を放置することによって車イスが通れない。自転車放置の問題一つをとりあげても、それがおこらないようにするという事が大切であり、もし、そうなっているのを見たら、片づけるだけでもインターアクターの社会全体への貢献していく第一歩ではないでしょうか。

このようなことなど、実体験にもとづいての障害者問題がパネルディスカッションで出されましたが、それらを胸にとどめて、今後のみなさんの活動がより広がっていくことを期待します。

B班 国際化問題について

国際化という大きなテーマでしたので、結論は1つにはまとまりませんでした。

話題としては、国際交流、その中でも特にホームステイの話が多く出てきました。その時に、言葉の壁にぶちあたったが、心を通わすのに言葉も大切だが、言葉がなくても通じ合えるんだという意見が出てきました。

そして、外国人と接していくためには、自立心をもってはずかしがらずに接していくことが大切なのです。

そして何よりもこれからの私たちの課題にしていきたいことは自分の国、また、外国を知る、つまり、視野を広げて積極的に知識を得る努力が必要なのであり、決して偏った見方をすることではないということです。

C班 老人問題

- 老人問題は所得、健康、孤独の3つに分かれる。
- 現在の高齢化は人間の長寿の願望を満たしているかも知れないが、諸施設等は若者向けの物が多い。
- 老人は子供たちの迷惑にはなりたくないと思っている。
- しかし老人ホームにも一般的には行きたくないと思っている。

①

①の観点から老人の幸せを考えると

- 単に老人を老人ホームおくりにすることを考えず老人と共に生活する社会を考える。
- できるだけふれあいを保つ（会話など）

ということだった。

しかしこれは現在老人と同居している人のみ出来ることで、今では老人と同居している家庭は全体の20%以下である。

独り暮らしの老人については、一般的に生きがいを失いつつある場合があり、また仕事を持っていない人もいるといわれている。そして、生きがいを持っている老人と持っていない老人では人生の価値感が異なるといわれている。

自分の生きがいは仕事という考えもあるが孫や家族との交流（会話）が生きがいという人もいる。そして討議している「老人、ということばにも世間から疎外されているイメージを持つ人もるので「老人、ではなく「お年寄り、という言葉を使えば、知恵があり、人生経験の豊富な人というイメージがわいてくるようです。

やっぱりお年寄りが幸せになる第一歩には他人との会話というのが大事なポイントを占めているようです。そこで、具体的な提案として、「おはよう」とかのあいさつからコミュニケーションを計ろうと考えました。

2つめの大きな議題はシルバーシートについてでした。

あまり活発な討議にはならなかったけれど、普段のみんなの行動から「シルバーシート」はあってもなくても同じだという考えがよみとれました。そうしたことから話し合いはシルバーシートは必要かどうかということに移りました。

そういうものを作らなければ声をかけられない社会を作ったのは今の40才～50才の世代という意見もありました。

そして、今の私たちが社会の中心になるころに、私たちはどのようにしていくべきなのかということについて次のような意見がありました。

- みんなが助け合い声をかけ合えば、なくても大丈夫。
- やっぱりお年寄りや病気の人のためにシルバーシートは必要。
- どうすべきかわからない。

1つめの話し合いで今の社会において疎外されつつある老人の知恵や経験を自分たちのものとし、積極的に会話を保つということがあげられましたが、このシルバーシートの問題でも最終的には、いつでも声をかけ合う姿勢があれば自然に席を譲れるということでした。

お年寄りへのいたわり、そして尊敬の気持ちが自然にあれば、シルバーシートなどなくてもいい。お年寄りや幼少の人に対する弱いやつは捨てる的な発想から意識革命が必要ということでした。

D班 「老人問題」

I 「老人と接する時」と言えば（実際の体験もふまえて）

- 電車の中で席を譲ってあげた時
- 横断歩道を、手をつないで渡ってあげた時
- おばあさんが重たそうな荷物を持っていたので、目的地までそれを持って行ってあげた時
- 老人ホームへの訪問

- 家に、おじいさんやおばあさんがいる

II 「実際に、老人とふれあってみて…」

- 話しかけても、素直に答えてくれないときがある
- 何を考えているのか読み取れない（わからない）と感じられるときがある
- 老人と付き合うのは難しいと思うことがある
- 健康のためと思って何度言ってもタバコを止めてくれない

～電車の中での事～

- 席を譲ってあげようと思うんだけど、タイミングがつかめない
- 「席を譲れ」と言わんばかりに若者の前に立つ老人には、席を譲る気がなくなることもある
- 席を譲ってあげたものの、断られたら恥ずかしいなあ…

～老人ホームでの事～

- 自分と異性の老人に話しかけても、楽しくしゃべってくれないでこまるときがある
- 何度も老人ホームを訪問していると、名前を覚えてくれるようになり、「次も来てね」って言うてくれた
- 老人と何度もふれあっていると、おじいさん達は、話し相手を欲しがっている事がわかった
- おじいさんやおばあさんを自分達の学校の文化祭に招待して交流を深めた時、おばあさん達がすごく喜んでくれて嬉しかった

III 「色々な経験から言える事は？」

- 私達が、老人福祉における社会活動を、当然のようにしなければいけない
- 老人の不満の解消を受け入れてあげ、心のうちを知る為に、老人の話しは気長に落ち着いて聞きふれあいを深める
- 国民全体が老人に関わりをもつ
- 老人は、仕事からはなれていることが多いから、社会において必要じゃないと思いがち。だから、老人が必要とされていると思えるような社会を私達がつくっていく。
- 老人は、なにかと地域の結びつきが弱いのではないかと思えるので、地域での活動を考える
- 老人は体力的には劣っていることもあるが、精神的に非常に敬意をはらうことができる
- （タバコを吸う老人に対して）止めて欲しい理由を、ケムリが嫌いだからという理由ではなく、身体のに気を使い、相手の立場にたって止めて欲しい事を伝える

IV 「D班としてのスローガン」

まずは身近なところから…ということで、電車の中での事にしました。

「電車の中で老人に席を譲る事は、ごく当たり前のようにはしなくてははいけません、感情が入ったりしても（しんどいあ…眠たいなあ…etc）必ず老人には席を譲る」というように結論づけました。

あ と が き

今年度は新しく明浄学院高等学校 I A C が 6 月に設立され、当 R I 第 266 地区のインターアクトクラブの数は 9 校となりました。

それぞれのクラブは提唱ロータリークラブの援助のもとにインターアクト精神を尊重し、独自の活動を推進しています。

8 月には、9 クラブそろって海外研修にハワイへ参りました。現地では、2 泊 3 日のホームステイ、現地高校生との交歓会、パールハーバーでの平和についての学習など生徒達にとって意義深い行程となったようです。それぞれの生徒のありのままの心をつづった文をまとめましたので、ご一読下さいまして、今後ともご指導下さいますれば幸いです。

また、年次大会は、国際交流センターで開催し、国際化社会、福祉社会への提言を高校生の立場からディスカッションを通じておこないました。後半にその概要を集録しましたのであわせてご覧下さい。

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎

I A C 顧問 西 野 博 子

